第6次鶴田町総合計画
市民意識調査概要版

2022年2月

弘前大学人文社会科学部

調査概要

〇調査対象：町内にお住いの2,000名の方（住民基本台帳から無作為抽出）
〇調査期間：令和3年12月9日～令和3年12月25日
〇調査方法：調査票を郵送後、郵便で回収。
〇配布・回収：

種別	配布数	回収数	回収率
合計	2,000票	1,112票	55.6%

〇99%の確率で比率の結果の誤差は4%以下です。例えば、回答で30%であった場合、99%の確率で34%から26%の間だと考えることができます。

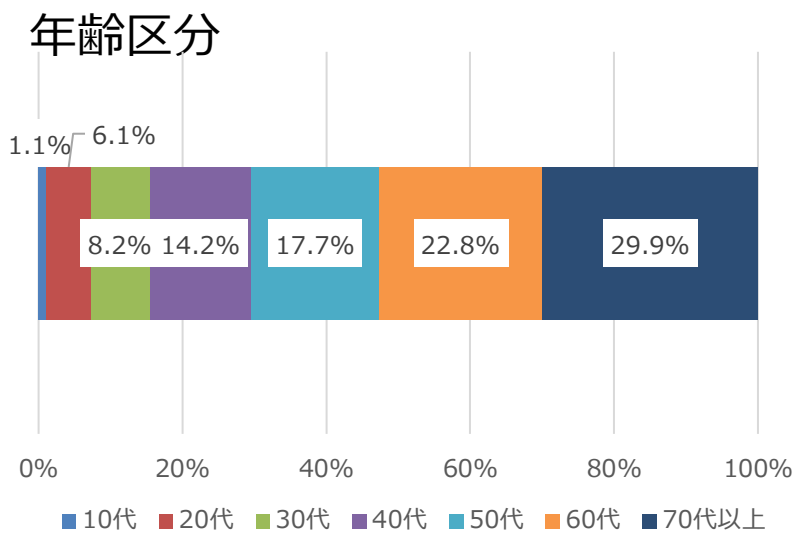
目次

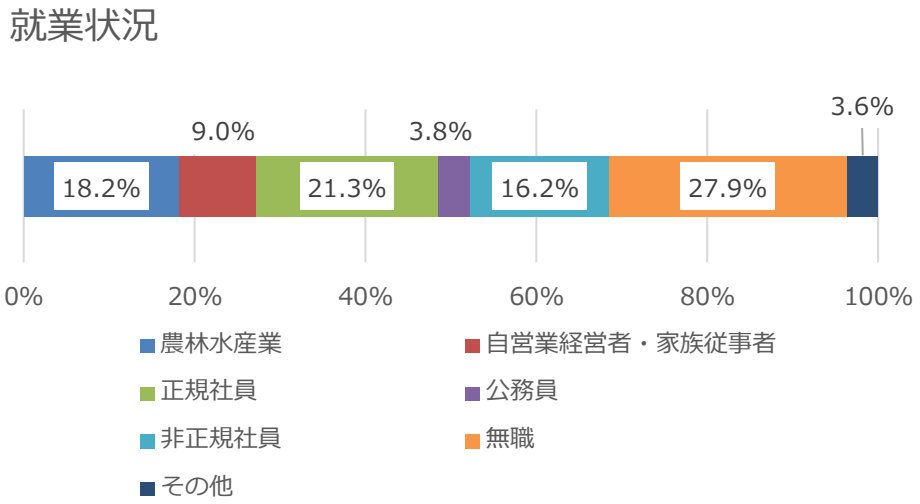
回答者の属性 …… 4
医療への不満点 …… 5
「健康」のために実践していることは何か …… 6
「朝ごはん条例」に関する意識と特徴 …… 7
鶴田町はどんな地域か …… 8
人口減少を食い止めるには？～中学生以下同居別～ …… 9
人口減少を食い止めるには？～就業職種別～ …… 10
子育てしにくいと思っている人が求めていること …… 11
小・中学校の運営にあたって重要なこと …… 12
困っていることと家族 …… 13
農林業の活性化について必要な取り組みは何か …… 14
スチューベンの認知度を上げるためには何をすれば良いか …… 15
道の駅の集客向上に必要な取り組み …… 16
集客のための取り組みについて …… 17
就労環境に対する市民の意識 …… 18
町民が思う鶴田町の魅力 …… 19
年齢・居住地域別の鶴田町に対する愛着 …… 20
住み続けたくない人は理由は？ …… 21

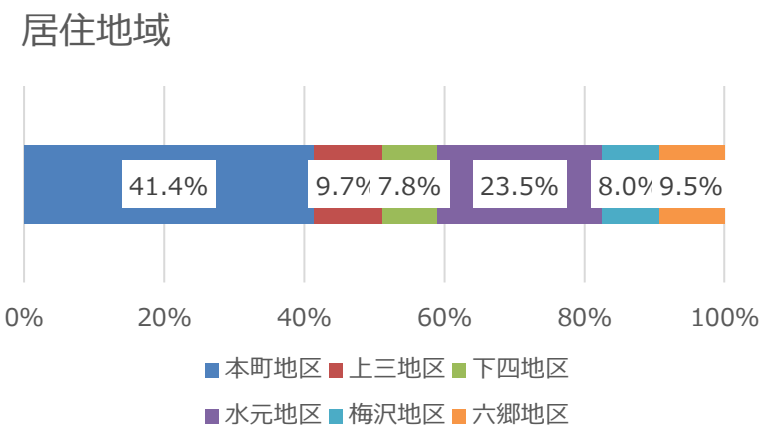
目次

不安層の災害への備えについて 22
ハザードマップの認知度は５割満たず 23
公共交通機関の利用者・未利用者別の改善点 24
施策の満足度・重要度 25,26,27,28
「鶴と国際交流の里」の認知度は高く、町民に浸透している！ 29
行政サービスのデジタル化 30
学校・職場でのICT（インターネット）導入について 31
地域づくりに参加したい人はどんな人か 32

回答者の属性



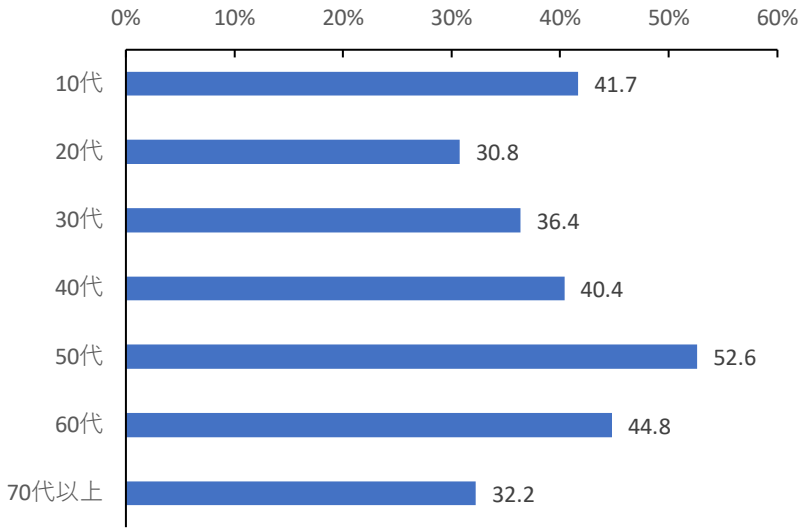




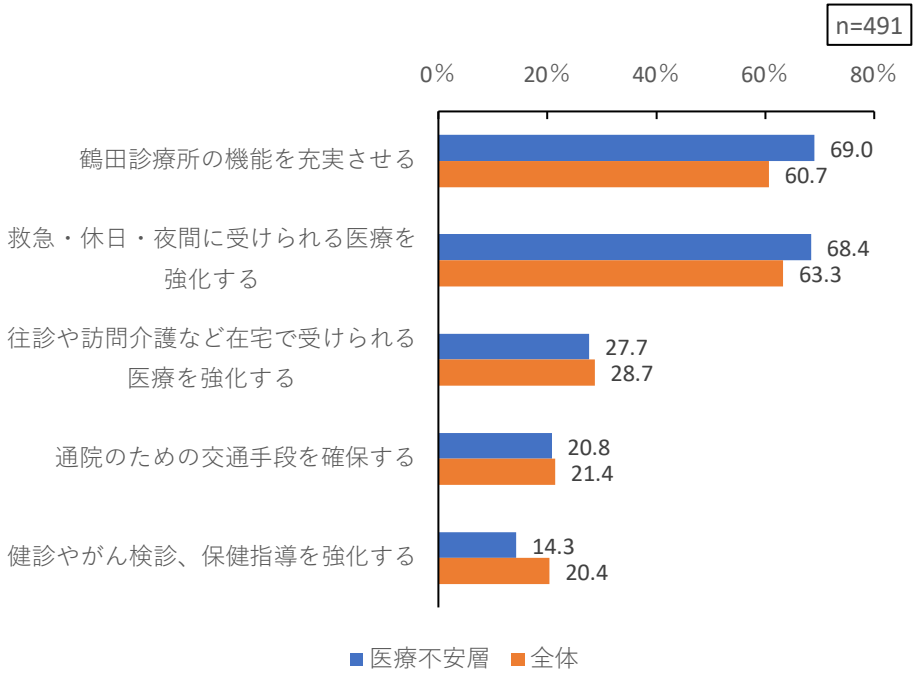
回答者は10-30代が18.0%、40-50代が32.2%、60代以上が49.4%と、やや高齢層に偏っています。それにともない就業状況も無職が27.9%を占めますが、正規社員も21.3%、農林水産業も18.2%を占めています。

居住地域では本町地区が41.4%、水元地区が23.5%、そのほかの地区ではそれほど偏りが見られません。

医療への不満点

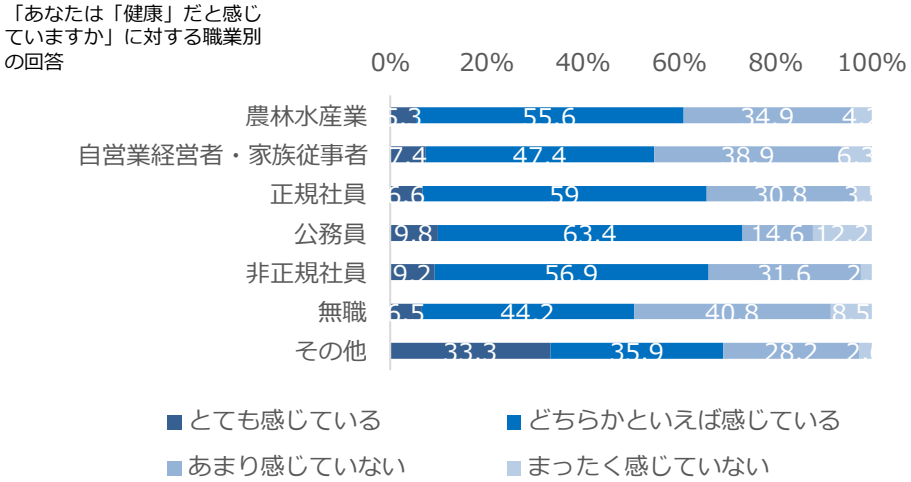


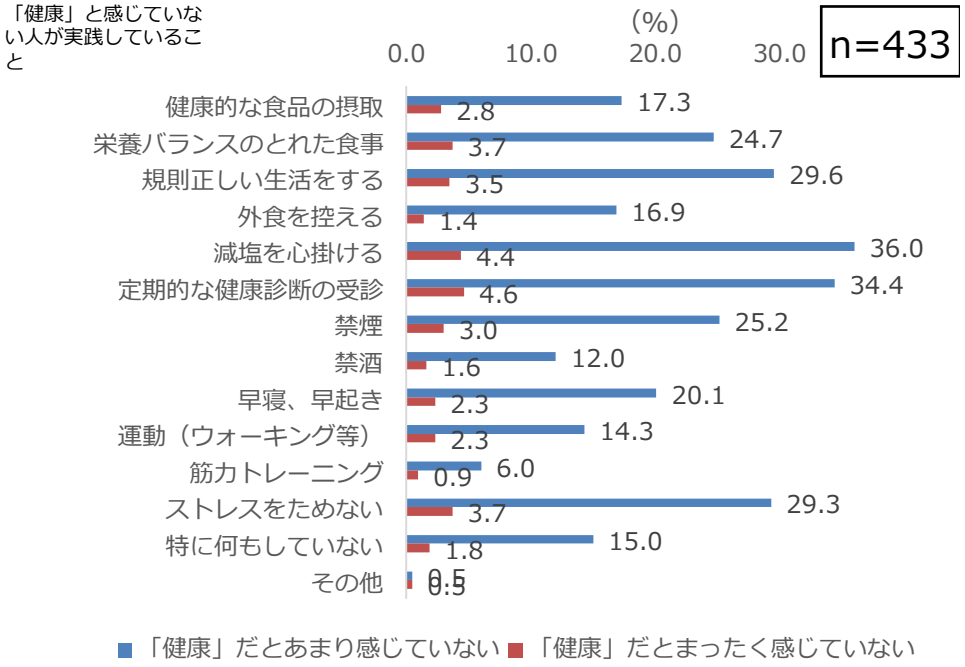
「鶴田町は、安心して医療を受けることができる地域だと思いますか。」の回答者を年代別に見ると、「あまりそう思わない」「まったく思わない」と答えた医療不安層の割合は50代では半数以上が鶴田町の医療に不安を感じており、次いで60代で44.8%、10代で41.7%と続いています。



「鶴田町は、安心して医療を受けることができる地域だと思いますか。」という質問に対して、「あまりそう思わない」「まったく思わない」と答えた人は、特に「鶴田診療所の機能を充実させる」「救急・休日・夜間に受けられる医療を強化する」ことを鶴田町の医療に対して望んでいます。

「健康」のために実践していることは何か



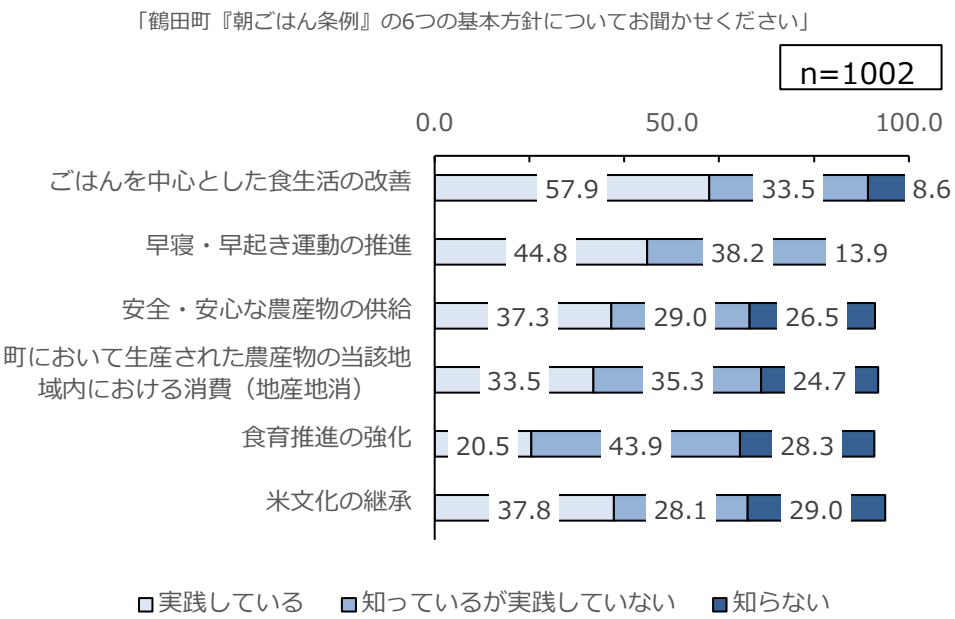


「あなたは「健康」だと感じていますか」に対する職業別の回答を見ると、「とても感じている」、「どちらかといえば感じている」の割合は公務員が最も高く、合計で73.2%となっています。一方、無職、自営業経営者・家族従事者人の「あまり感じていない」の割合は、それぞれ40.8%、38.9%と最も高くなっています。

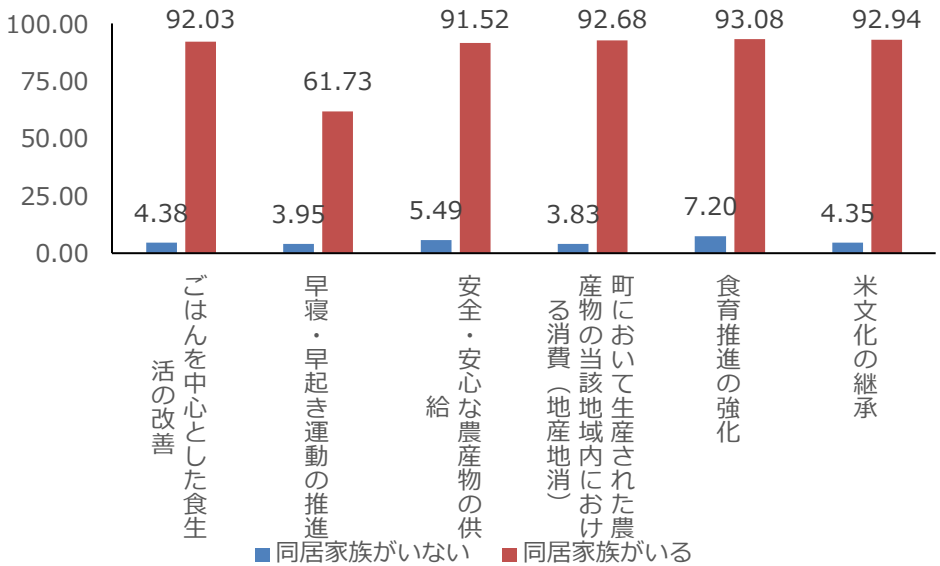
「「健康」だとあまり感じていない」と答えた人が実践していることとして、「減塩を心掛ける」が36.0%と最も多く、次いで「定期的な健康診断の受診」の34.4%となっており、「筋力トレーニング」、「禁酒」と答えた人は少なく、それぞれ6.0%、12.0%となっています。

「「健康」だとまったく感じていない」と答えた人は全体として何かを実践している人が少なく、このことが「健康」と感じることのできない要因となっているのではないかと推測されます。

「朝ごはん条例」に関する意識と特徴



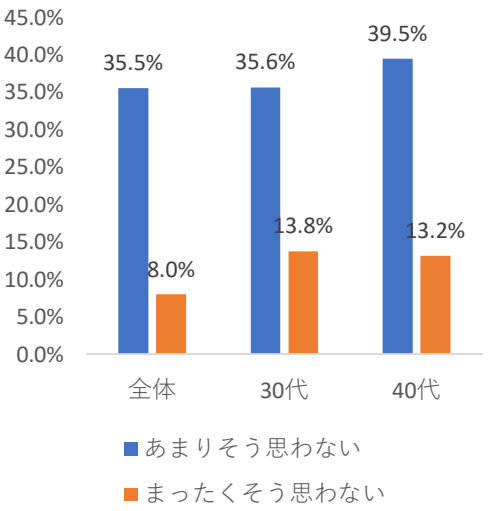
鶴田町「朝ごはん条例」の6つの方針について、「実施している」ものでは「ごはんを中心とした食生活の改善」(57.9%)、「知っているが実施していない」ものでは「食育推進の強化」(43.9%)、「知らない」ものでは「米文化の継承」(29.0%)が最も高くなっています。

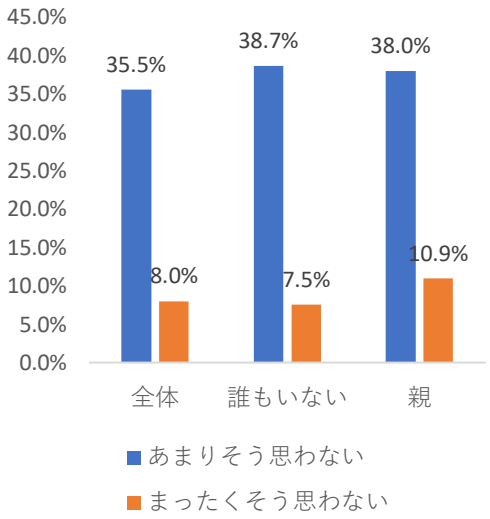


同居家族の有無についてみると、同居家族がいて「実施している」人は、同居家族がいなく「実施している」人よりも、すべての方針の割合がかなり高くなっています。よって、鶴田町「朝ごはん条例」の実施と同居家族の有無には関係性があると考えられます。

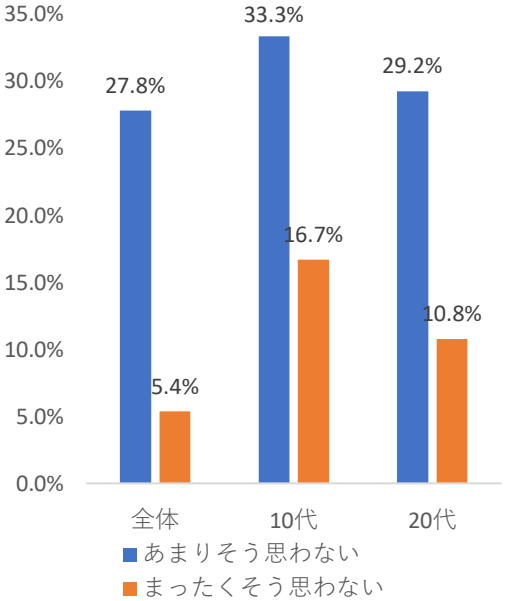
高齢期の安心と子育てしやすさ

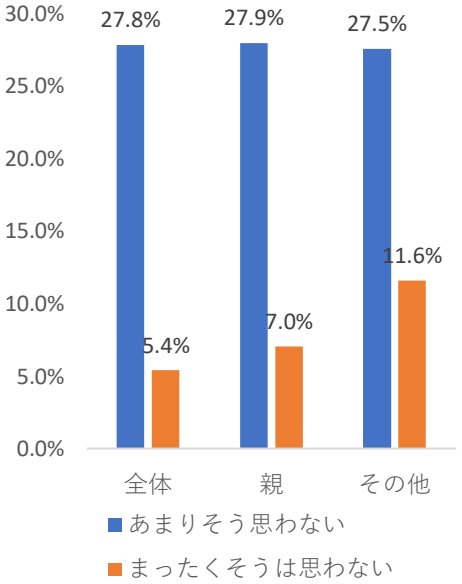
「鶴田町は高齢になっても安心して暮らせる場所だと思いますか」





「鶴田町は子供を育てやすい地域だと思いますか」

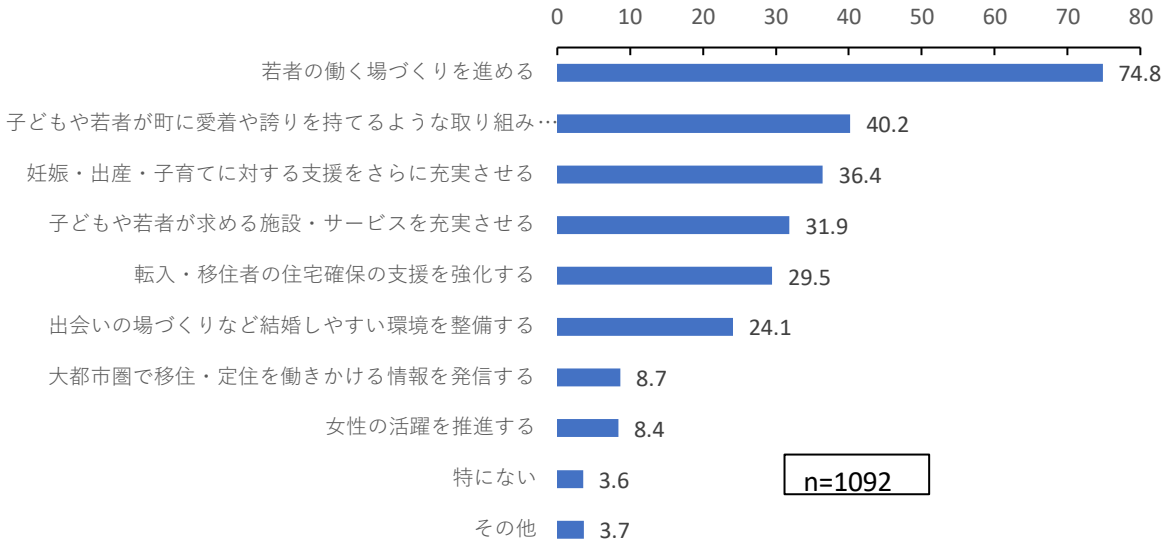




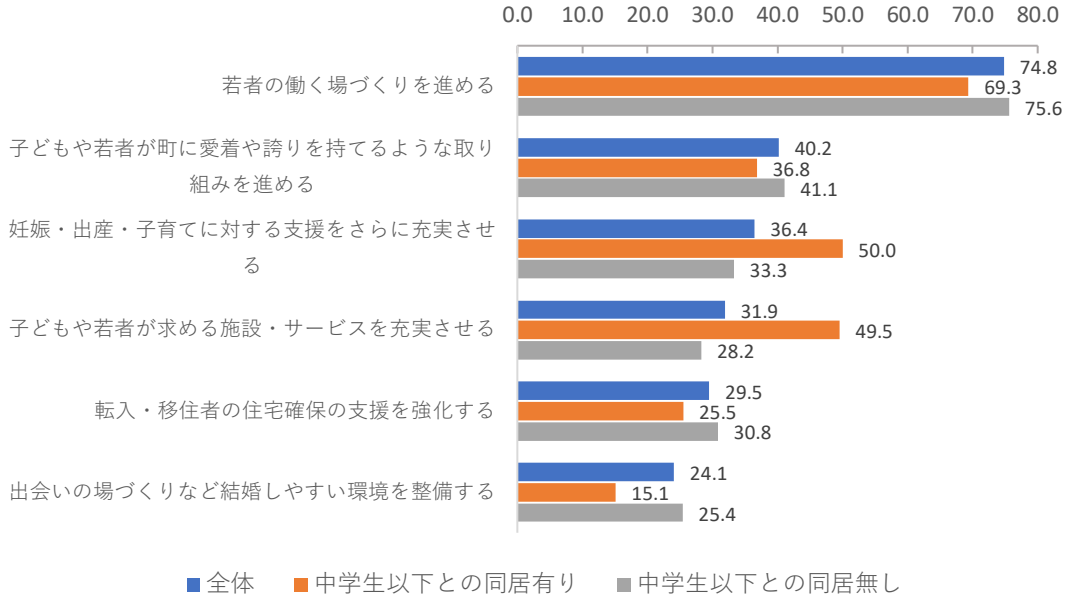
「鶴田町は高齢になっても安心して暮らせる場所だと思いますか」に対して「あまりそう思わない」と答えた、30代と40代の世代は全体より割合が高く、同居家族が「誰もいない」「親」と答えた人も全体より高くなっていることが分かりました。このことから、若年層や子供のいない人では高齢になった際の不安を抱えていることが読み取れます。

また、「子供を育てやすい地域だと思うか」という問いには「あまり思わない」「まったくそう思わない」と答えた10代、20代と同居家族が「親」「その他」と答えた割合は全体よりも高いことが分かります。このことから、子どもをまだ持たない世代や子供がいない世代が子育てしやすい町だと感じていないことが分かります。

人口減少を食い止めるには？
～中学生以下同居別～

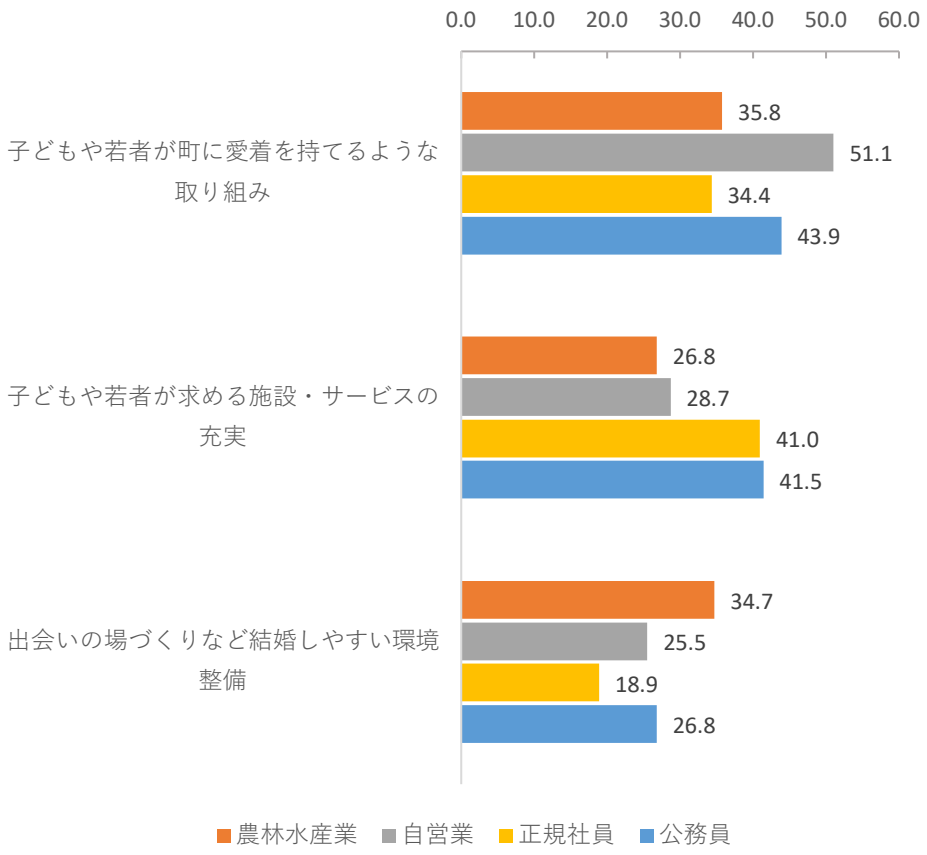


「力を入れて取り組むべき人口減少対策」について、最も多かった回答は「若者の働く場づくりを進める」(74.8%)でした。この回答は世代が上がるにつれて回答割合が高くなる傾向がありました。「子どもや若者が求める施設・サービスの充実」については、10代～30代の若い世代からの回答割合が高く、いずれも50%を越えていました。



また、回答割合上位の6項目を取り出し、中学生以下の子どもとの同居有無で比較した結果が左図です。同居ありの人は「妊娠･出産･子育てに対する支援のさらなる充実」「子どもや若者が求める施設･サービスの充実」の回答割合が高くなっていることがわかります。反対に「結婚しやすい環境の整備」の項目は回答割合が低くなっています。

人口減少を食い止めるには？
～就業職種別～



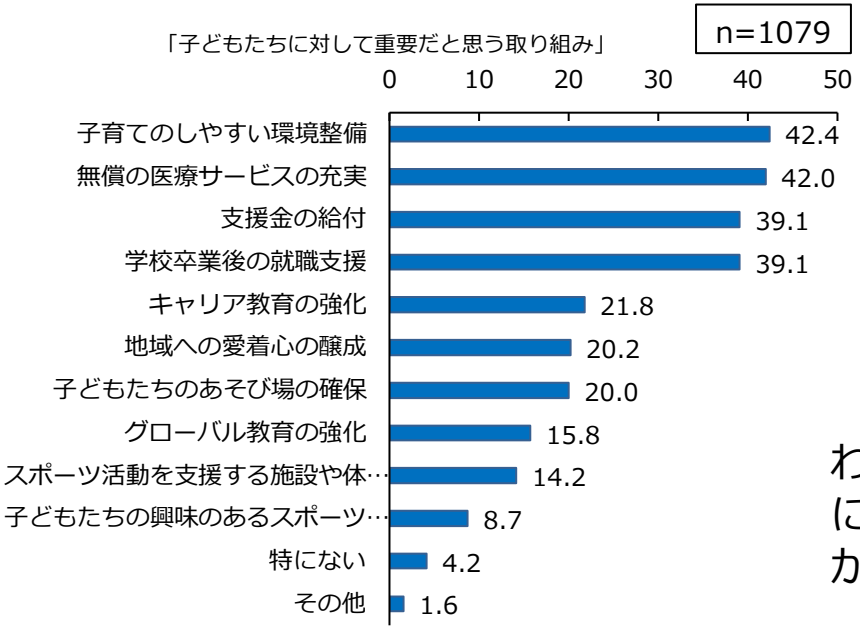
「力を入れて取り組むべき人口減少対策」の主な職種別回答は左図のようになりました。

自営業の人は「子どもや若者が町に愛着を持てるような取り組み」と回答した人が51.1%と高かったです。

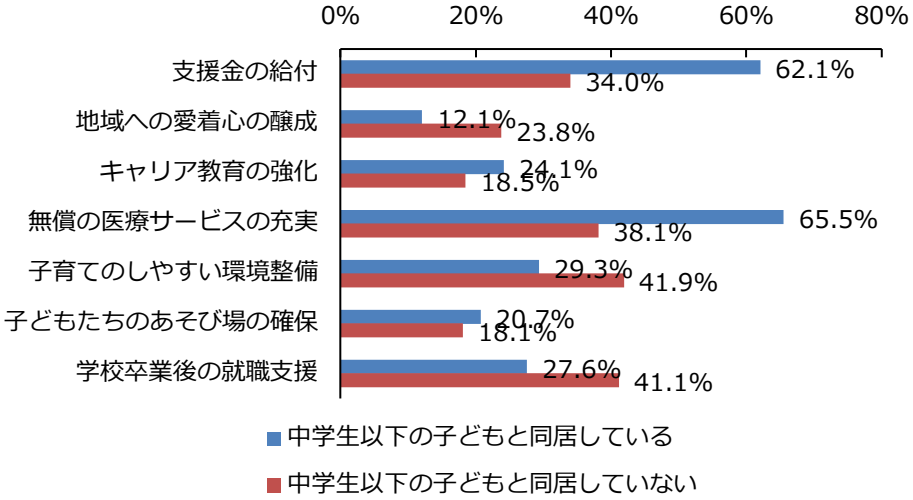
「子どもや若者が求める施設・サービスの充実」は正規社員・公務員からの回答割合が高く、どちらも41%台と全体割合を大きく上回っていました。

「出会いの場づくりなど結婚しやすい環境整備」については農林産業に従事する人からの回答割合が最も高かったです。反対に正規社員は18.9%と全体結果(24.1%)よりも低い割合となっていました。

子育てしにくいと思っている人が求めている金銭的支援



「子どもたちに対して、重要だと思う取り組み」は全体でみると、「子育てのしやすい環境整備」が42.4%、次いで「無償の医療サービスの充実」が42.0%、「支援金の給付」と「学校卒業後の就職支援」が39.1%と続いています。

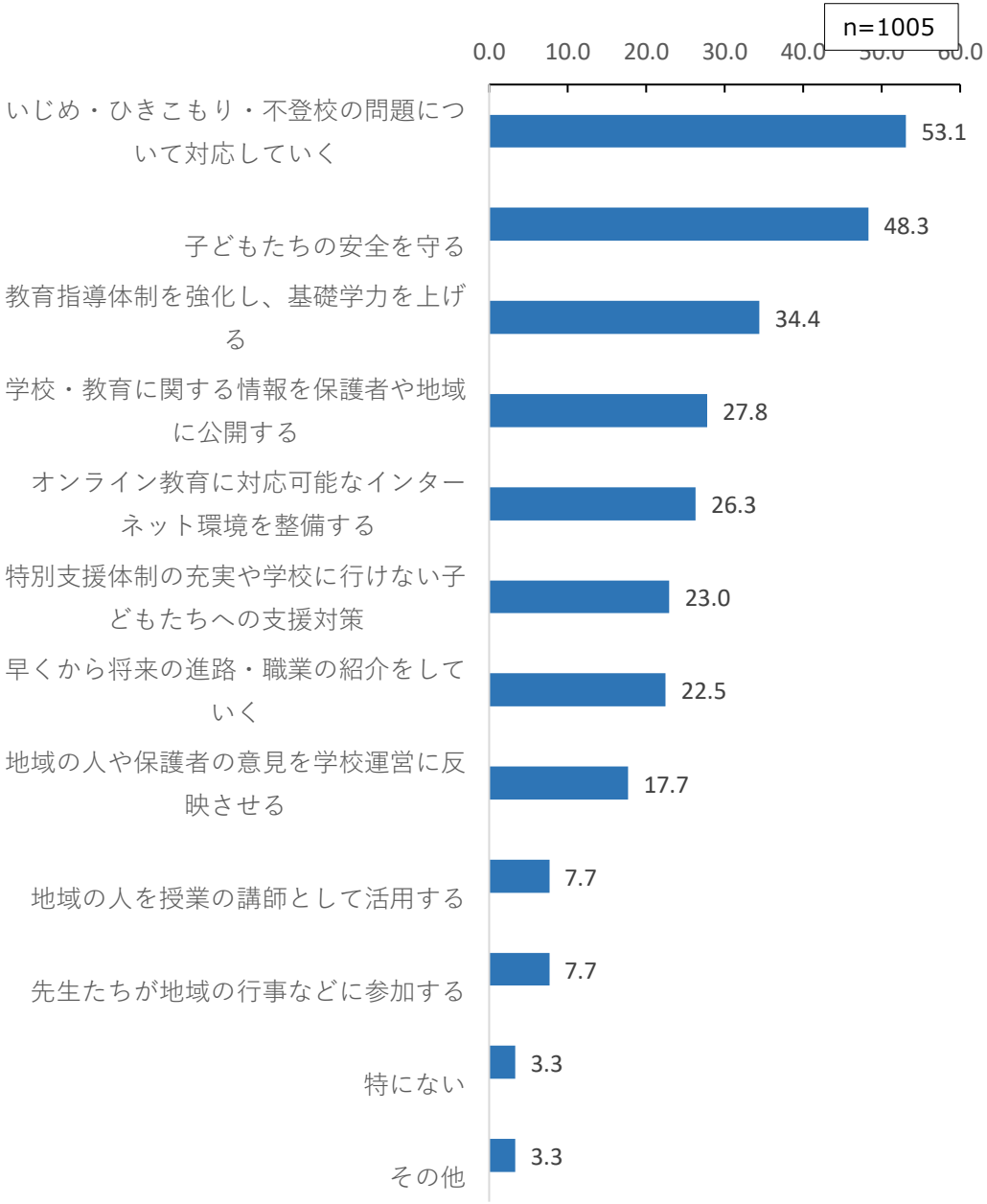


「子育てしやすい環境」とは「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と答えた人に絞り、中学生以下の子どもとの同居しているかどうかで比較してみます。

同居している人はいない人に比べ「支援金の給付」と「無償の医療サービスの充実」でかなり高くなっていました。一方、全体では最も多かった「子育てしやすい環境整備」は29.3%と全体と比較しても低くなっていることがわかります。

このことから、子育てしやすい環境だと思っていない、現在子育て中の人は、環境の整備等の取り組みよりも、金銭面での援助を求めていると考えられます。

小・中学校の運営にあたって重要なこと

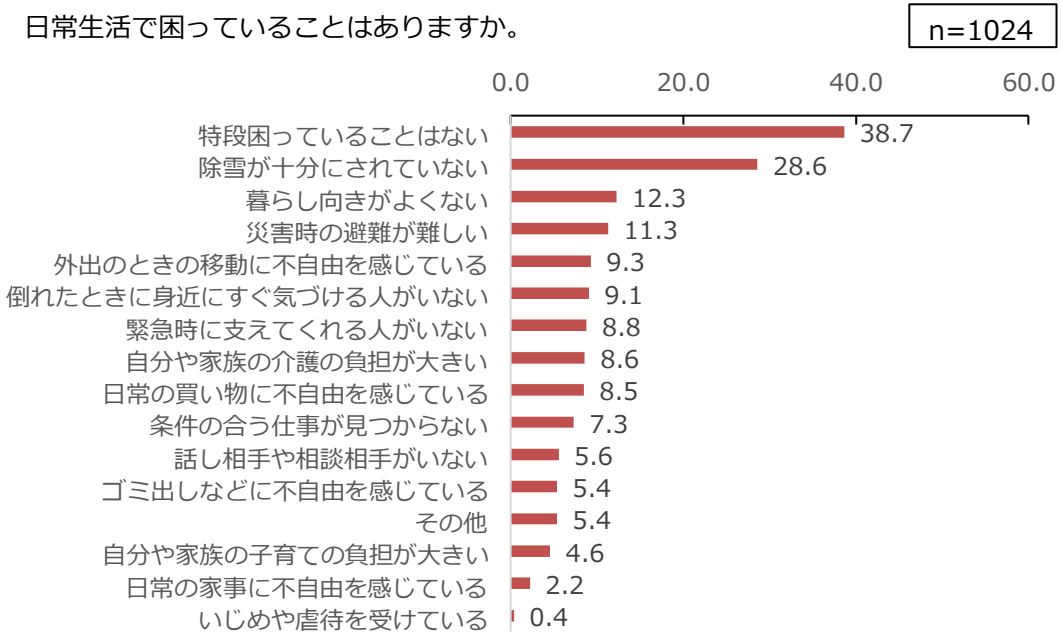


中学生以下と同居している人は全体の20%となっています。教育に関して身近であると考えられるこの人たちは、小・中学校の運営にどんなことを求めているのかについて調べると、次のようになりました。

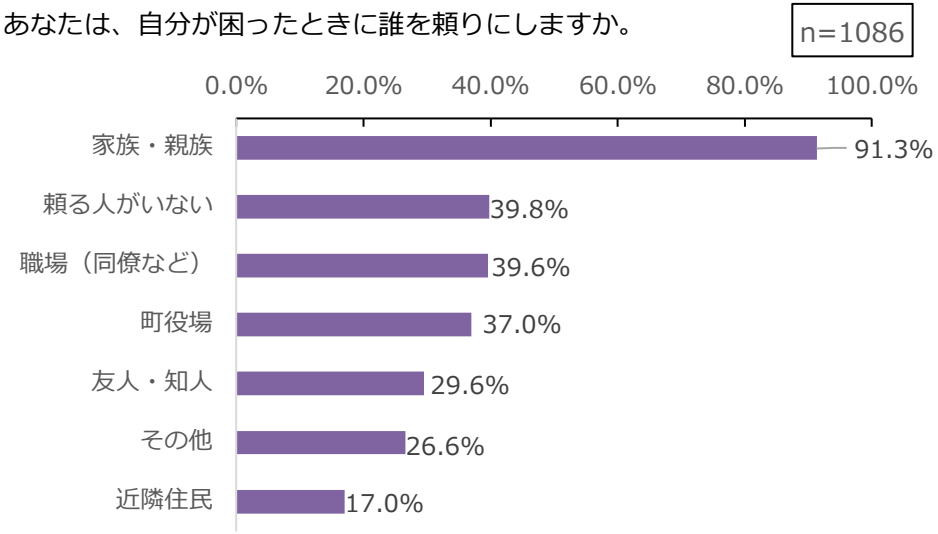
中学生以下と同居している人が小・中学校の運営で1番重要だと思っていることは、「いじめ・ひきこもり・不登校の問題に対応していく」で53%、次に重要だと思っていることは「子供たちの安全を守る」で48%となっています。中学生以下のご家族がいる家庭は、子供たちが心身ともに健康で元気で過ごせるような学校を望んでいると考えられます。

困っていることと家族

日常生活で困っていることはありますか。



あなたは、自分が困ったときに誰を頼りにしますか。

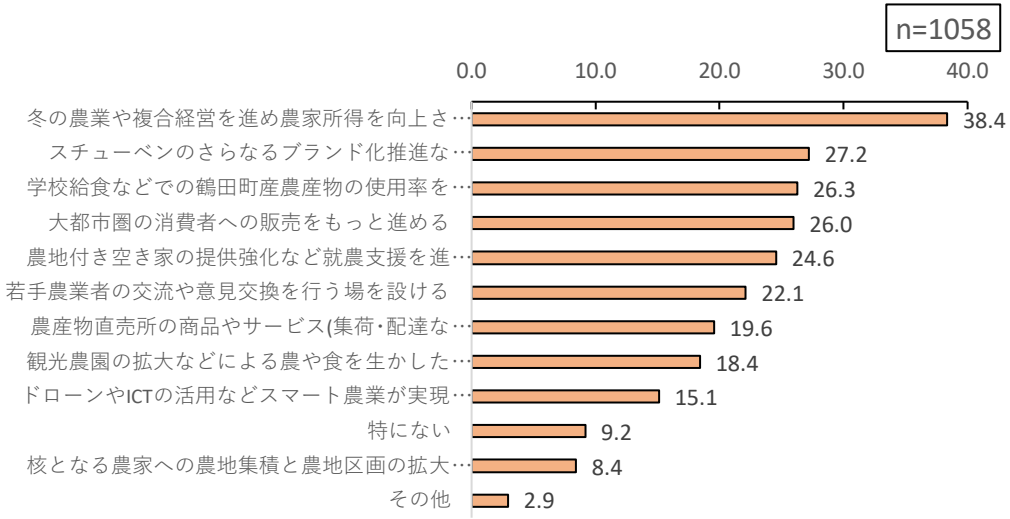


日常生活で困っていることについて、「除雪が十分にされていない」（28.6%）が突出して高く、続いて「暮らし向きが良くない」（12.3%）「災害時の避難が難しい」（11.3%）と続いています。

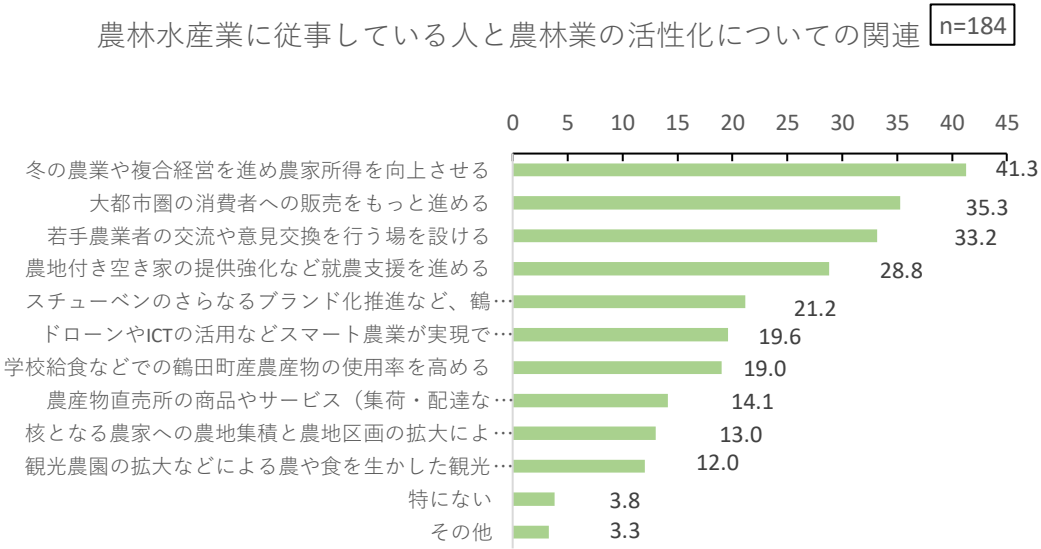
また、同居家族別にみると、同居家族がいる人は同居家族の種別にかかわらず「特段困っていることはない」と答える割合が40%を超えているのに対し、「誰もいない」と答えた人のみ25.3%となっており、同居家族がいないと困ることが多いということを示しています。

それに関連して、困ったときに頼りにする人は「家族・親族」（91.3%）が圧倒的に多くなっています。

農林業の活性化について必要な取り組みは何か



農林水産業に従事している人と農林業の活性化についての関連

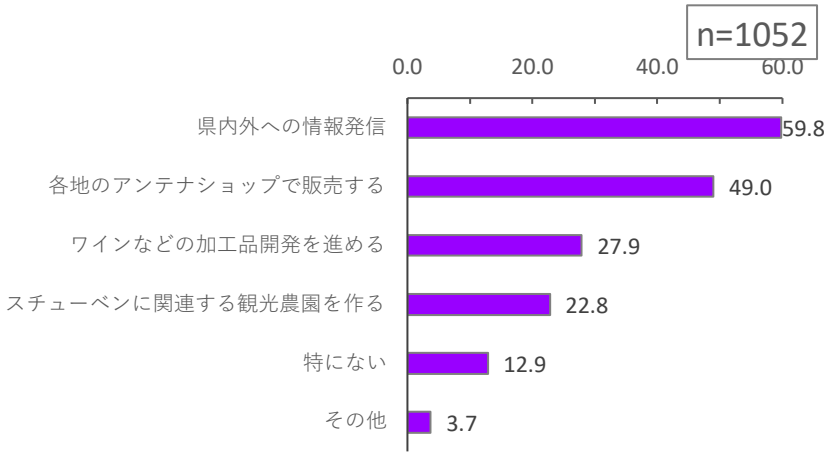


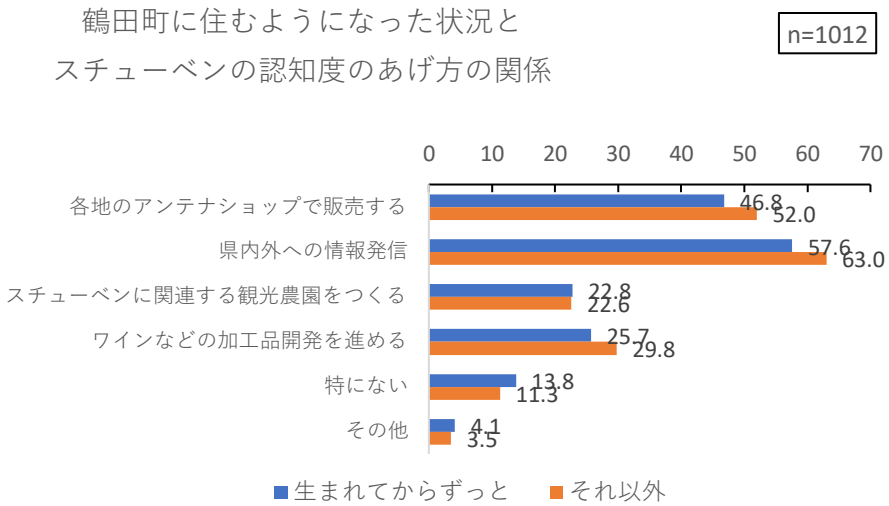
「鶴田町の農林業の活性化についてどのような取り組みが必要ですか」について、「冬の農業や複合経営を進め農家所得を向上させる」が38.4%、次いで「スチューベンのさらなるブランド化推進など、鶴田町のイメージを上げる」（27.2%）、「学校給食などでの鶴田町産農産物の使用率を高める」（26.3%）でした。

農林水産業に就業している人は、「冬の農業や複合経営を進め農家所得を向上させる」が41.3%と最も高く、次いで「大都市圏の消費者への販売をもっと高める」が35.3%、「若手農業者の交流や意見交換を行う場を設ける」が33.2%でした。

このことから冬の農業を向上させることや大都市圏への販売を高めることに加えて、若手農業者の交流の場を設けることが必要だと考えられます。

スチューベンの認知度を上げるためには何をすれば良いか

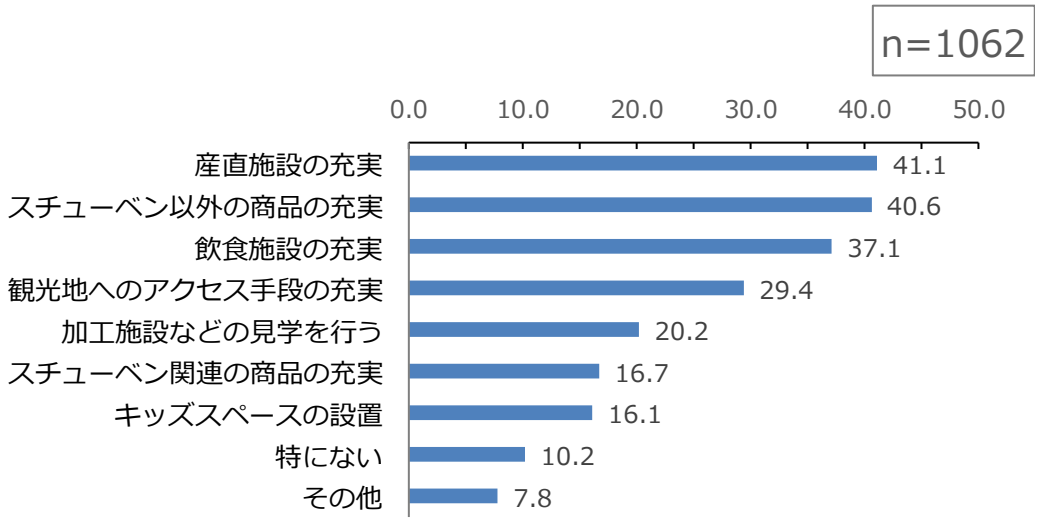


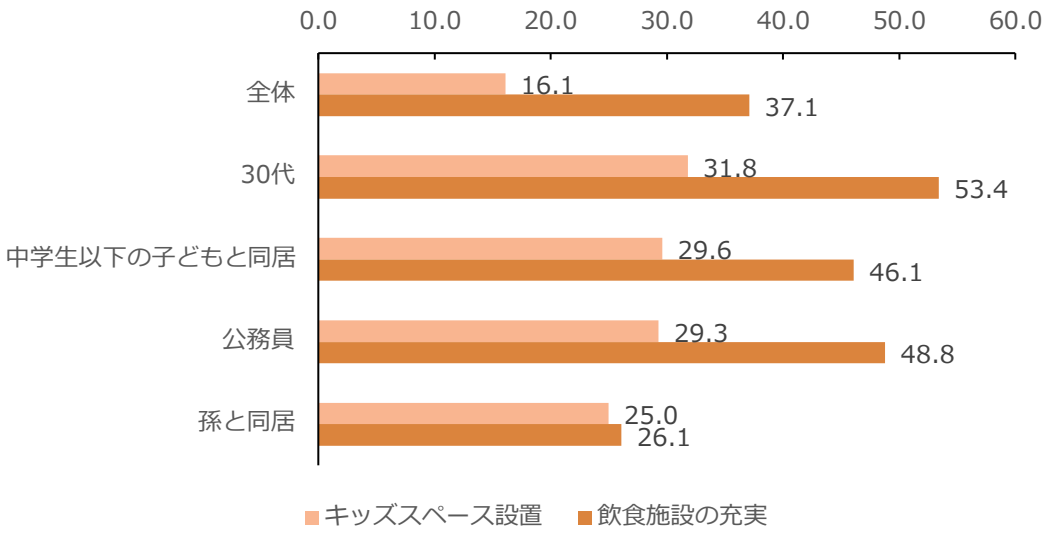


「スチューベンの認知度を上げるにはどのような取り組みが必要ですか」について、全体では「県内外への情報発信」は59.8%、次いで「各地のアンテナショップで販売する」（49.0%）、「ワインなどの加工品開発を進める」（22.8%）となっています。

鶴田町に住むようになった状況について、生まれてからずっと鶴田町に住んでいる人より、一度鶴田町を出た人や県外出身の人の方が「県内外への情報発信」や「各地のアンテナショップで販売する」への回答が多く、今後さらにスチューベンの認知度を上げるにはこれらの取り組みが必要だと考えていることがわかります。

道の駅の集客向上に必要な取り組み

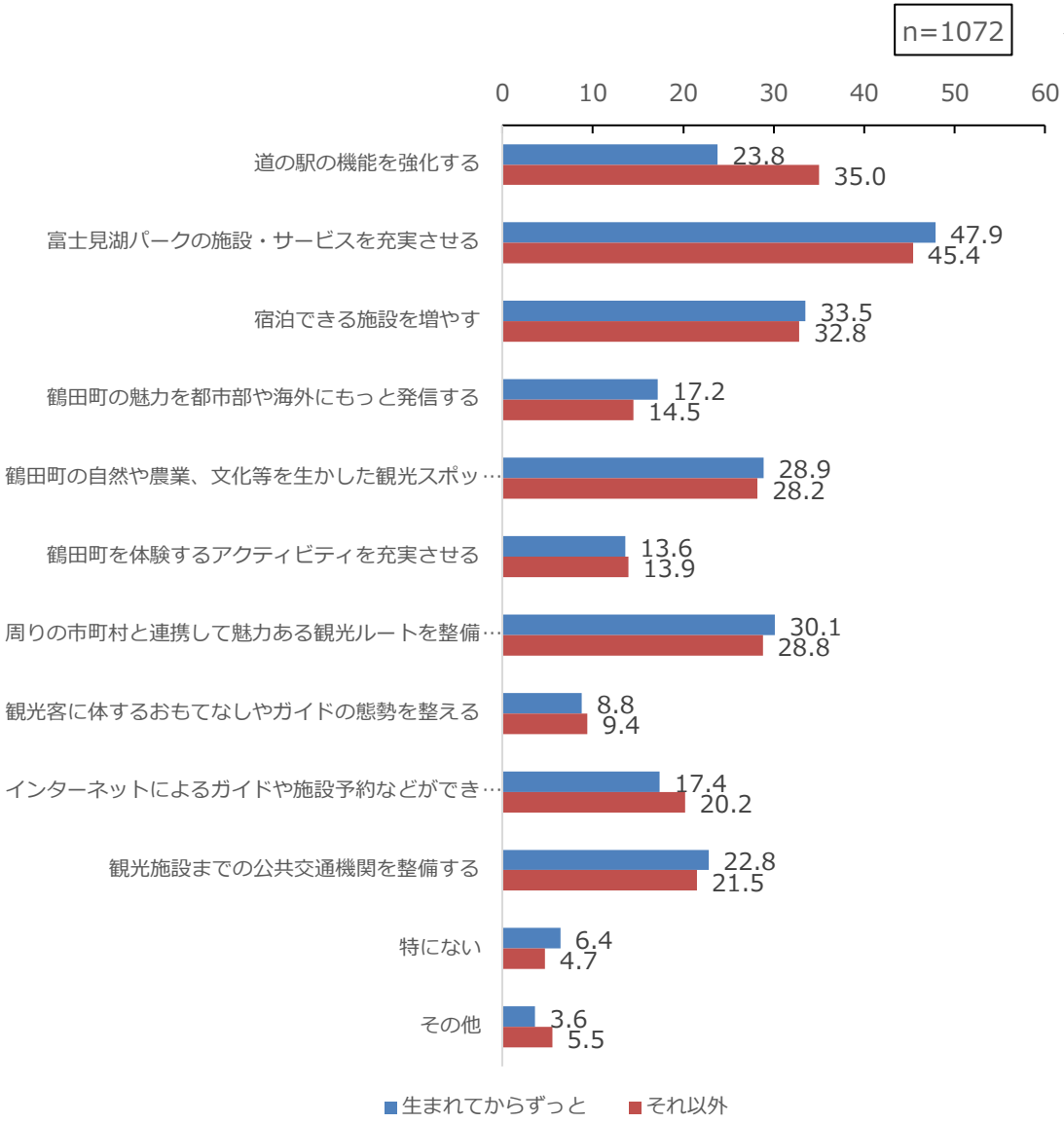




道の駅の集客向上に必要な取り組みとして、「産直施設の充実」が41.1%と最も高く、「スチューベン以外の商品の充実」(40.6%)、「飲食施設の充実」(37.1%)、「観光地へのアクセス手段の充実」(29.4%)と続いています。

全体で見ると、「キッズスペースの設置」の割合は他と比べて低くなっていますが、「30代」「中学生以下の子どもと同居」「公務員」「孫と同居」の属性において全体の割合よりも高くなっていることから、子育て家庭に必要とされていることがわかります。同じく「飲食施設の充実」も同様の属性において全体よりも割合が高くなっているため、子育て家庭に必要だとされていると考えられます。

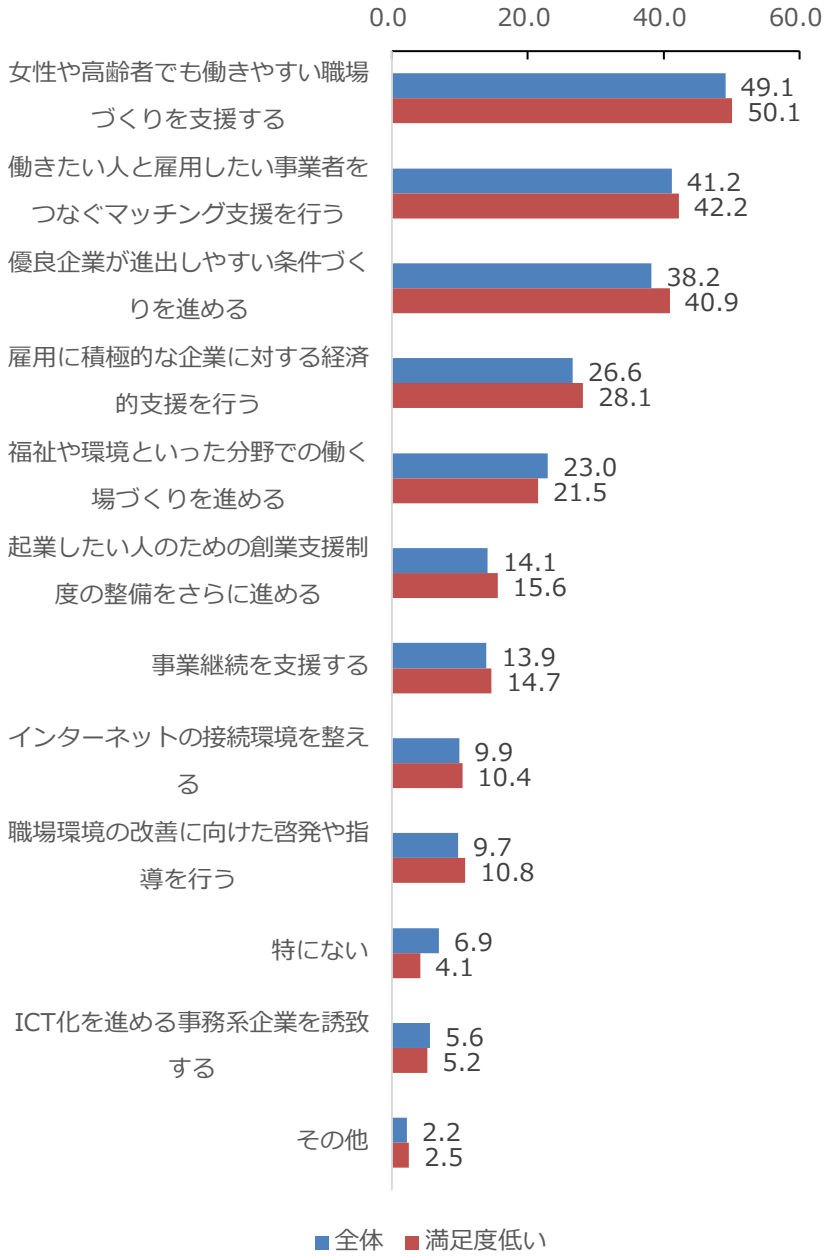
集客のための取り組みについて



鶴田町に観光客を集めるための取り組みとして、「富士見湖パークの施設・サービスを充実させる」という回答が46.3%と最も多くなっており、「宿泊できる施設を増やす」が33.1%、「道の駅の機能を強化する」が29.8%と続いている。

この結果について鶴田町に住むようになった状況別に見てみると、ほとんどの項目であまり差が見られない。しかし、「道の駅の機能を強化する」という項目で町外に住んだことがある人の回答数が生まれてからずっと鶴田町に住んでいる人の回答数よりはるかに多くなっている。このことから、鶴田町の道の駅あるじゃが他地域の道の駅と比べて改善するべき点があると考えられる。

就労環境に対する市民の意識



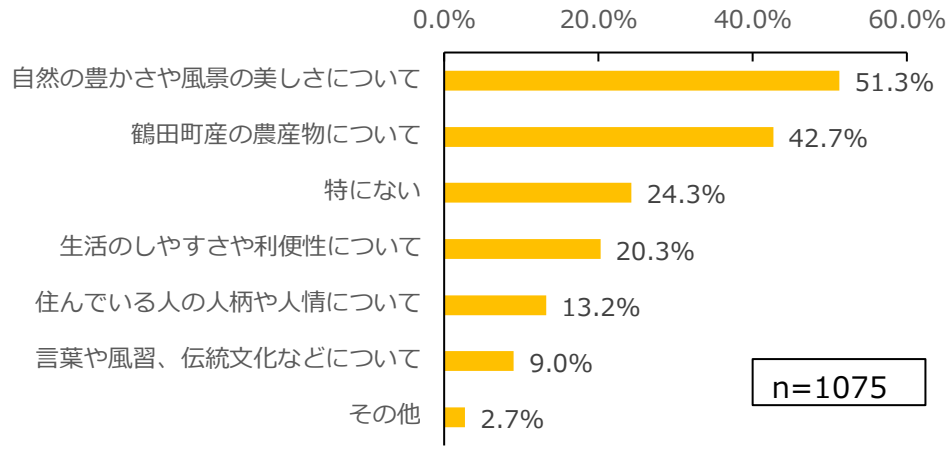
「働く場の確保」に「やや不満」「不満」と答えた人は、雇用の場の確保および就労環境の改善に必要な取り組みとして、「女性や高齢者でも働きやすい職場づくりを支援する」が50.1%、「働きたい人と雇用したい事業者をつなぐマッチング支援を行う」が42.2%、続いて「優良企業が進出しやすい条件づくりを進める」が40.9%と回答する人が多くなっています。

働く場の確保に満足度が低い人は、「インターネットの接続環境を整える」より、「職場環境の改善に向けた啓発や指導を行う」が0.4%と少し多く、全体の割合と比較すると順位が逆転します。

わずかな差はありますが、全体の割合との大きな違いは見受けられませんでした。

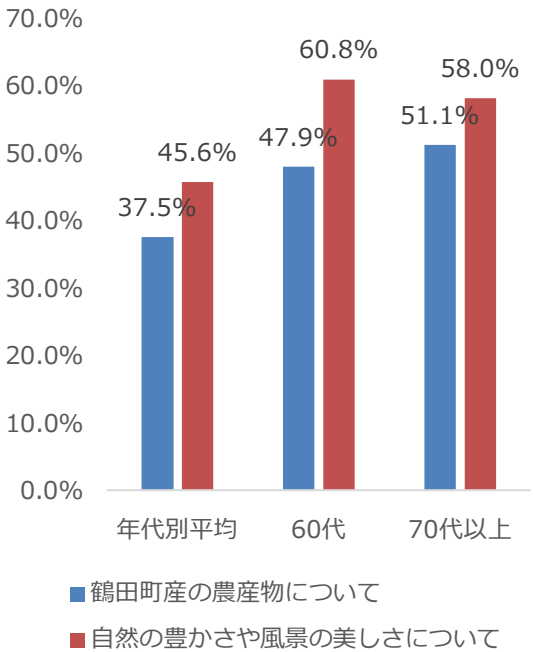
町民が思う鶴田町の魅力

「鶴田町について、他の市町村の人にどのようなことを自慢したいと思いますか」

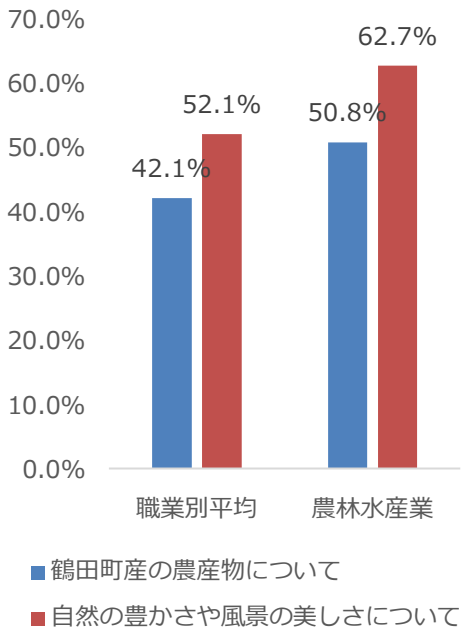


「鶴田町について、ほかの市町村の人に自慢したいこと何ですか」に対し、「自然の豊かさや風景の美しさについて」が51.3%、「鶴田町産の農産物について」が42.7%となったことから、鶴田町民は自然や食に大きな魅力を感じていることがわかります。

「年代別にみると」

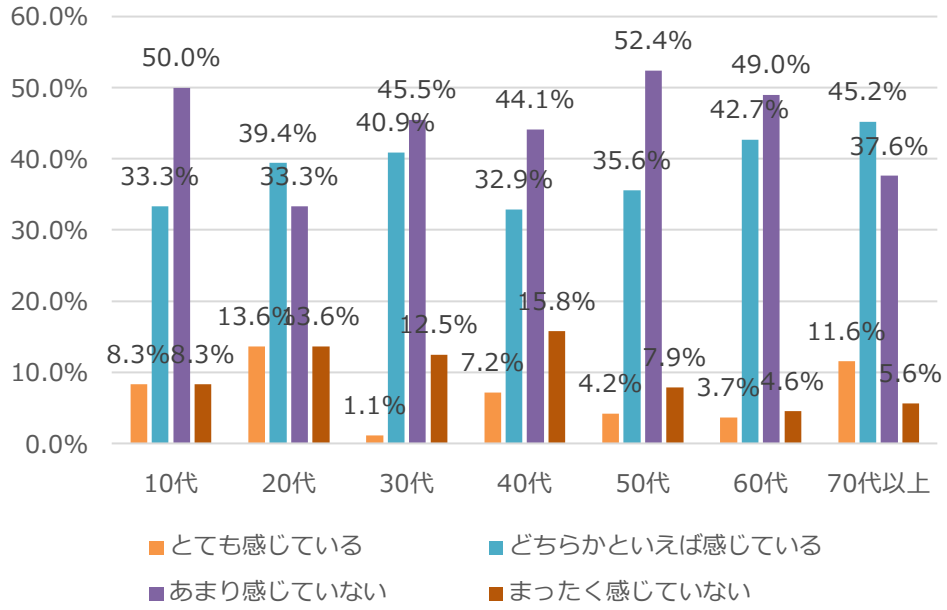


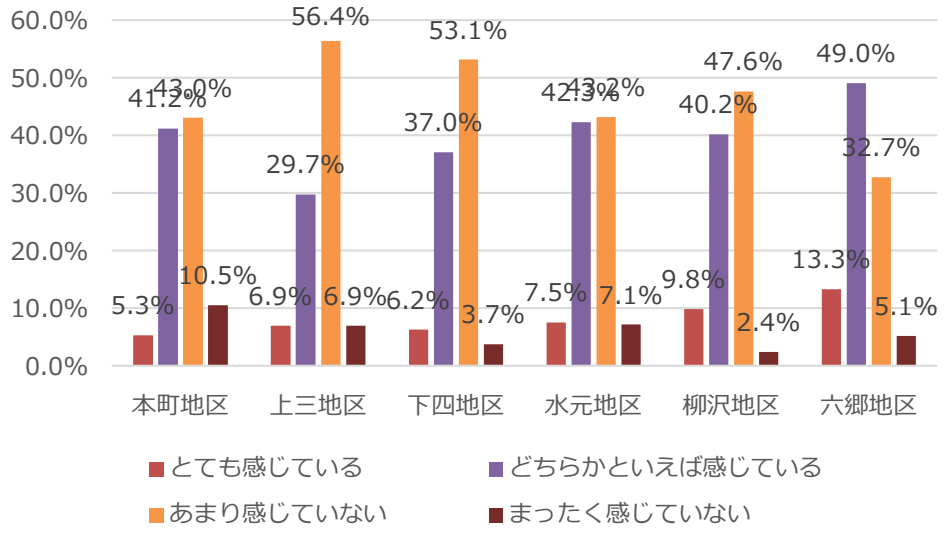
「職業別にみると」



「鶴田町産の農産物」と「自然の豊かさや風景の美しさ」について特徴的なのは、60代以上の方や農林水産業に就業している方の関心が高いことです。このことから、長く鶴田町に居住している人や、日常で自然とふれあう環境にいる人が、地元の農産物・自然等を自慢したいと感じる傾向にあることがわかります。

年齢・居住地域別の鶴田町に対する愛着

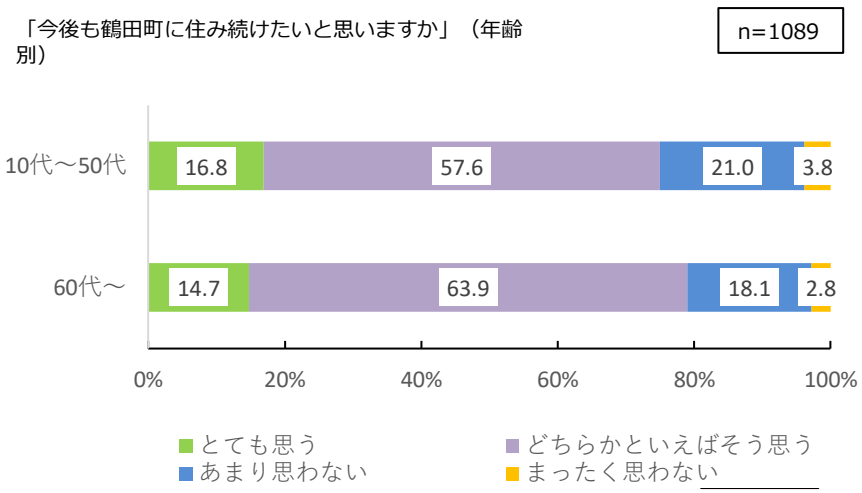


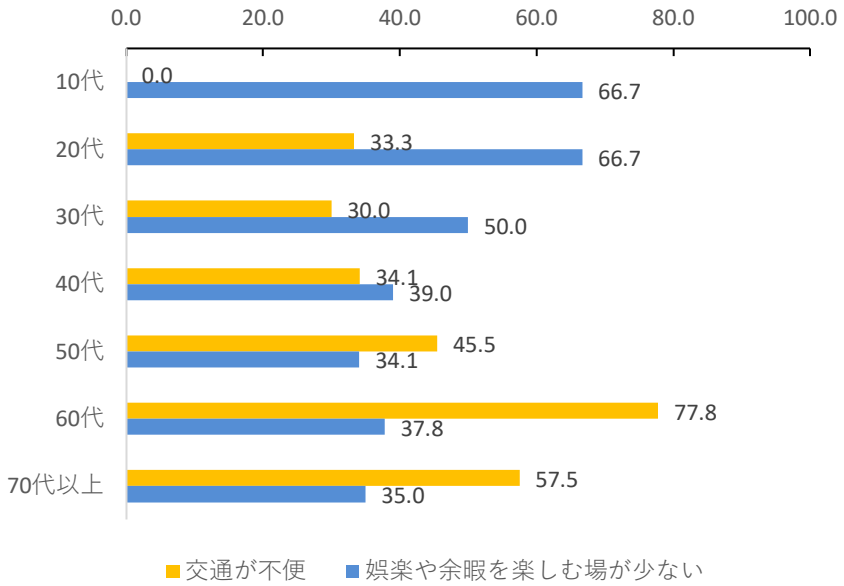


「あなたは、鶴田町の伝統や文化に誇りや愛着を感じていますか」について年齢別にみると左図のように、30･40･50代のあまり感じていない、まったく感じていないの合計が多いことが分かります。

居住地域別にみると、全体と比べ六郷地区が、とても感じている(13.3%)、どちらかといえば感じている(49.0%)と鶴田町の伝統や文化に誇りや愛着を感じている人が多いことが分かります。それに対し、上三地区は、あまり感じていない(56.4%)、まったく感じていない(6.9%)と誇りや愛着を感じていない人が多くなっていることが分かります。

住み続けたくない人は理由は？





今後も鶴田町に住み続けたいと思うかどうかについて、全体としては8割の人が住み続けたい と答え、2割の人が住み続けたくないと答えました。年齢別に見てみると、10代～50代の方が60代以上よりも住み続けたくないと答える人の割合が高くなっています。

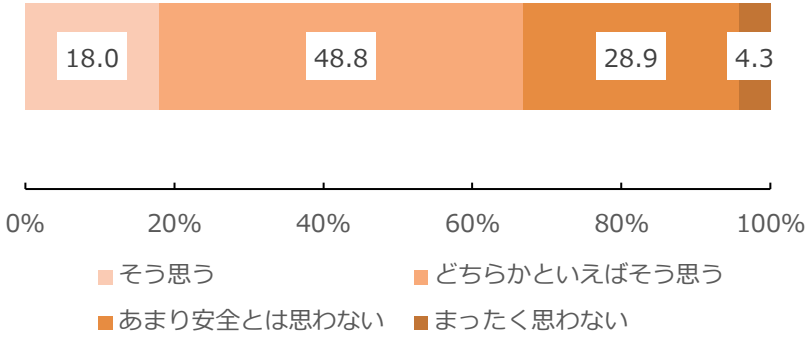
住み続けたくないと答えた人にその理由を聞いた設問では、全体では「交通が不便」と答えた人が50%で最も多く、次に「娯楽や余暇を楽しむ場が少ない」と答えた人が40.5%でした。

年齢別に見ると、「交通が不便」と答えた60代は77.8%、70代以上は57.5%と他の年齢の世代に比べ割合が高かったです。また、「娯楽や余暇を楽しむ場が少ない」と答えた10代～30代は50%を超えており、高齢者が交通の改善を、若者が娯楽や余暇を楽しむ場を求めていることが分かります。

災害不安層の災害への備えについて

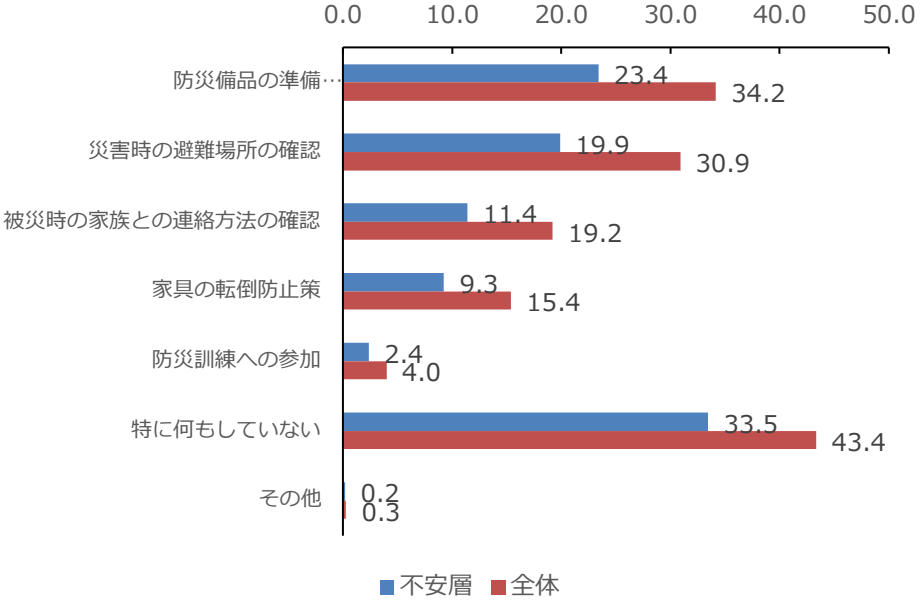
「あなたが住んでいる地域は、
災害などに対して安全だと思いますか」

n=1075



「あなたは災害への備えに次のことを実践していますか」

n=508

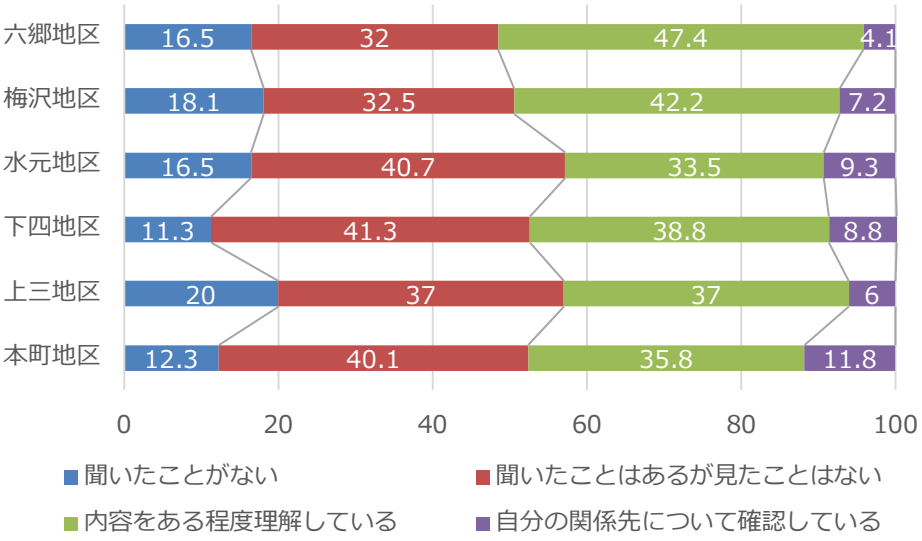


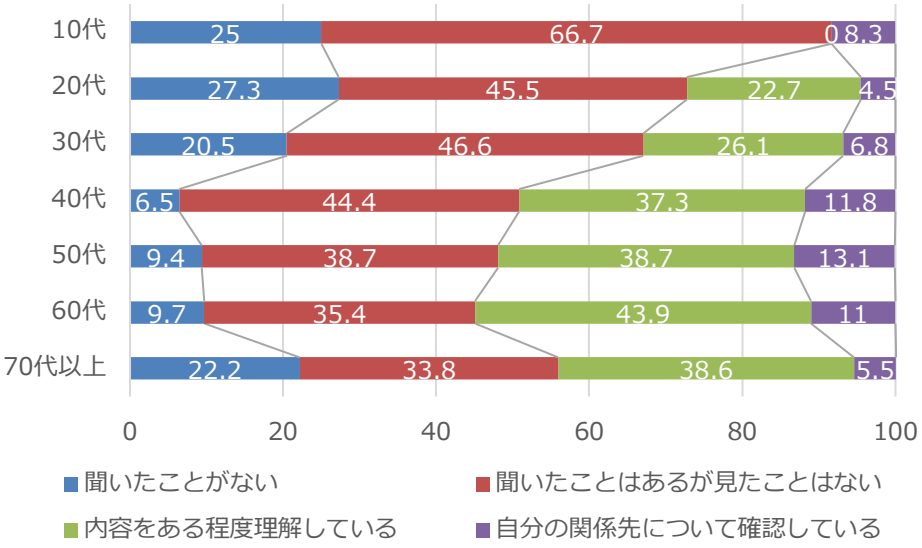
「あなたが住んでいる地域は、災害などに対して安全だと思いますか」という問いについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、安全だと思うという回答が全体の約7割を占めています。

災害について「あまり安全とは思わない」「まったく思わない」と回答した、自分が住んでいる地域の災害に対して不安を抱いている人々は、全体に比べ、全体的に災害への備えをあまり実践していないことが分かります。特に、「防災備品の準備（懐中電灯,消火器,救急箱,非常用持ち出し袋など）」「災害時の避難場所の確認」についは、全体より10%以上低くなっています。

ハザードマップの認知度は５割満たず

「ハザードマップについてどの程度ご存知ですか？」n=1066





ここでは「内容をある程度理解している」、「自分の関係先について確認している」と答えた人の割合を足したものを認知度とします。

全体ではハザードマップの認知度は5割に満たないという状況です。

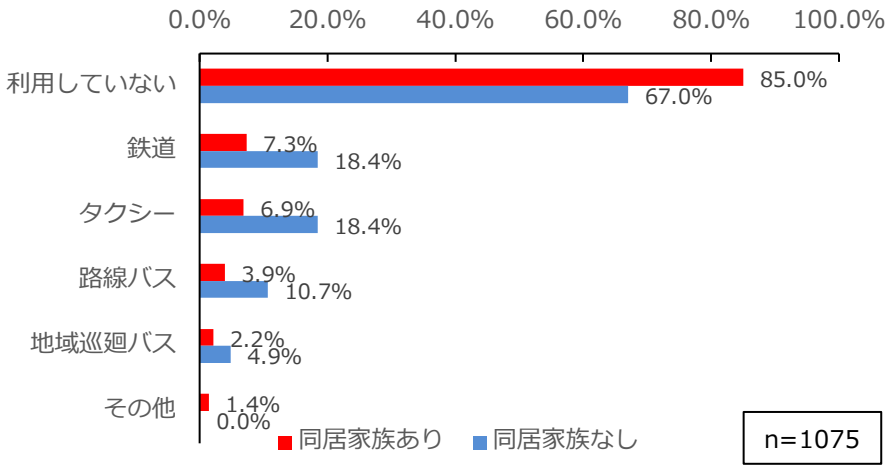
居住地別にみると本町地区での「自分の関係先について確認している」の割合が1割を超えていて、特に高くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれて認知度が高くなっており、50代、60代の認知度は5割を超えています。

対して、20代以下の認知度の低さと、迅速な避難が必要な70代以上での認知度の低下が目立つので、若者と高齢者へのハザードマップの周知が必要だと考えられます。

公共交通機関の利用者・未利用者別の改善点

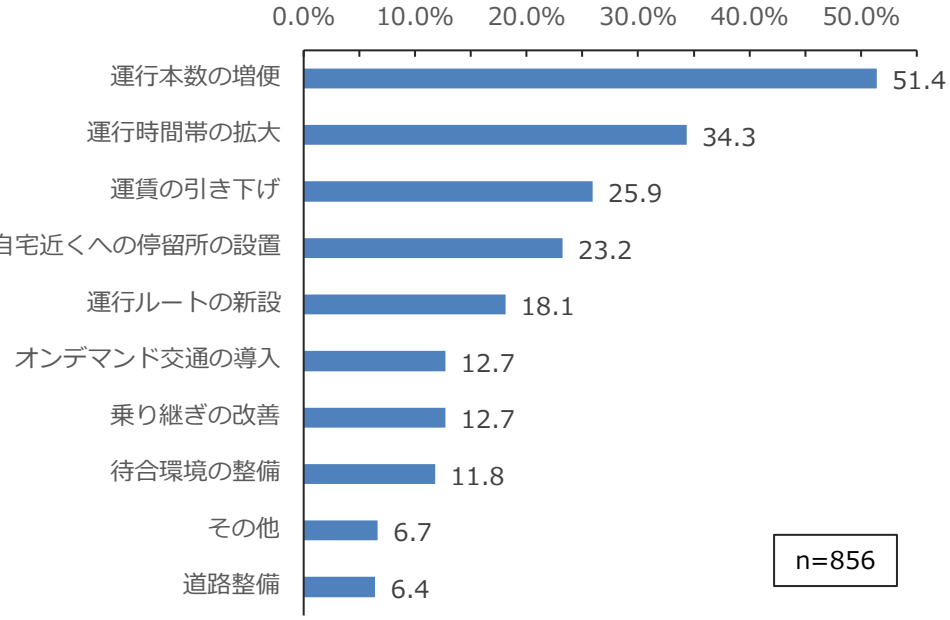
「あなたが普段利用している公共交通機関は何ですか」



「あなたが普段利用している公共交通機関は何ですか」について全体で「利用していない」と回答した人が80%以上を占めていました。公共交通機関の利用目的としては「通院」が56.3%と最も多くなっていました。

また同居家族の有無別に見ると同居家族がいない人は鉄道、タクシーの利用が18.4%と、同居家族がいる人より10%以上多いことがわかります。

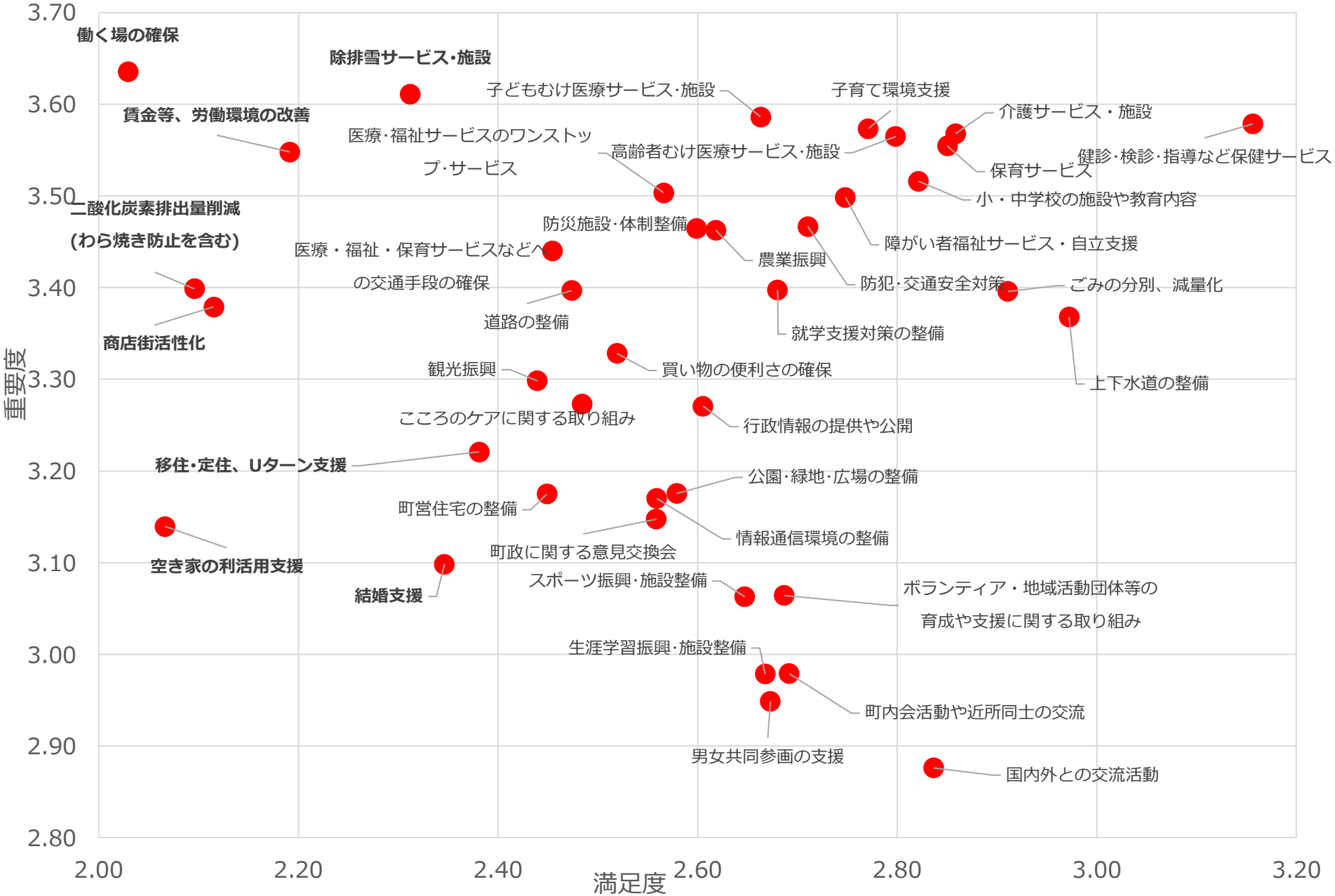
「何が改善されたら、より公共交通機関を利用したいと思いますか」



「何が改善されたら、より公共交通機関を利用したいと思いますか」について居住地区別にみると「下四地区」「水元地区」「梅沢地区」「六郷地区」では「自宅近くへの停留所の設置」という回答がいずれも30%を超えており、最も回答の少ない「上三地区（9.6%）」とは20%以上の差がでる結果となりました。

また年齢別にみると10代の91.7%が「運行本数の増便」、50.0%が「運行時間帯の拡大」と回答していることから、通学等で利用している学生が運行不足を感じていることがわかります。

施策の満足度・重要度


3.70
3.60
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
重要度
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
満足度
働く場の確保
除排雪サービス･施設
賃金等、労働環境の改善
子どもむけ医療サービス･施設
子育て環境支援
介護サービス・施設
医療･福祉サービスのワンストップ･サービス
高齢者むけ医療サービス･施設
健診･検診･指導など保健サービス
保育サービス
小・中学校の施設や教育内容
二酸化炭素排出量削減
(わら焼き防止を含む)
防災施設･体制整備
障がい者福祉サービス・自立支援
医療・福祉・保育サービスなどへの交通手段の確保
農業振興
防犯･交通安全対策
ごみの分別、減量化
道路の整備
就学支援対策の整備
商店街活性化
観光振興
買い物の便利さの確保
上下水道の整備
こころのケアに関する取り組み
行政情報の提供や公開
移住･定住、Uターン支援
公園･緑地･広場の整備
町営住宅の整備
情報通信環境の整備
町政に関する意見交換会
空き家の利活用支援
結婚支援
スポーツ振興･施設整備
ボランティア・地域活動団体等の育成や支援に関する取り組み
生涯学習振興･施設整備
町内会活動や近所同士の交流
男女共同参画の支援
国内外との交流活動

施策の満足度・重要度

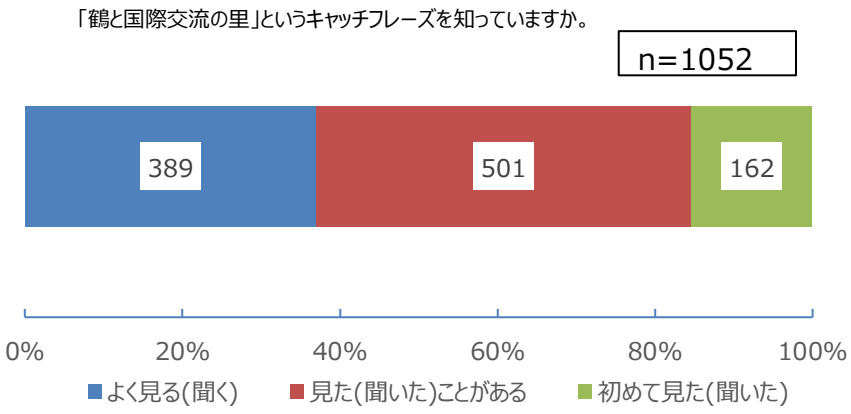
【満足度】

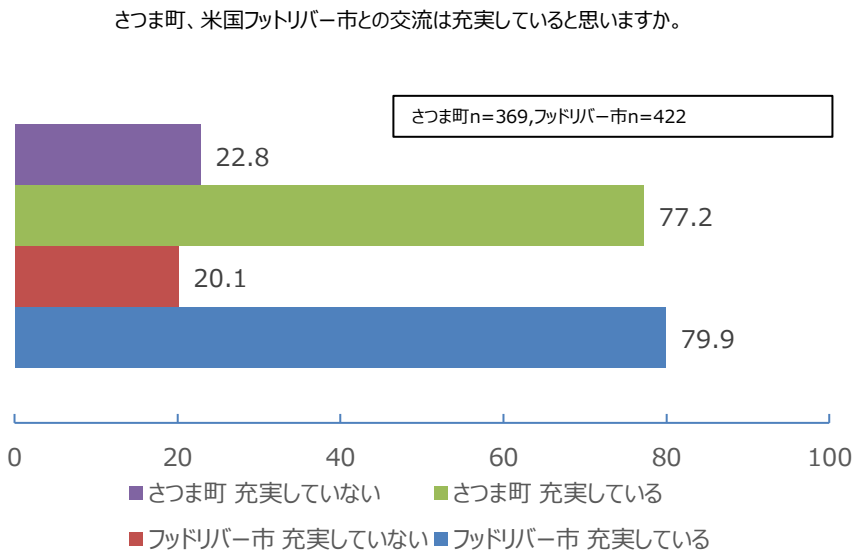
上位5項目		下位5項目	
健診･検診･指導など保健サービス	3.16	働く場の確保	2.03
上下水道の整備	2.97	空き家の利活用支援	2.12
ごみの分別、減量化	2.91	二酸化炭素排出量削減	2.19
介護サービス・施設	2.86	商店街活性化	2.07
保育サービス	2.85	賃金等、労働環境の改善	2.10

【重要度】

上位5項目		下位5項目	
働く場の確保	3.63	国内外との交流活動	2.88
除排雪サービス・施設	3.61	男女共同参画も支援	2.95
子供向け医療サービス・施設	3.59	生涯学習振興・施設整備	2.98
健康・検診・指導などの保険サービス	3.58	町内会活動や近所同士の交流	2.98
子育て環境支援	3.57	スポーツ振興・施設整備	3.06

「鶴と国際交流の里」の認知度は、高く、町民に浸透している！





全体の約85%の人が「鶴と国際交流の里」の名について知っており、非常に高い認知度と言えます。

加えてこのキャッチフレーズがまちづくりに合っていると回答した割合は約70%であることから、「鶴と国際交流の里」に親しみを持っている人も多いと考えられます。

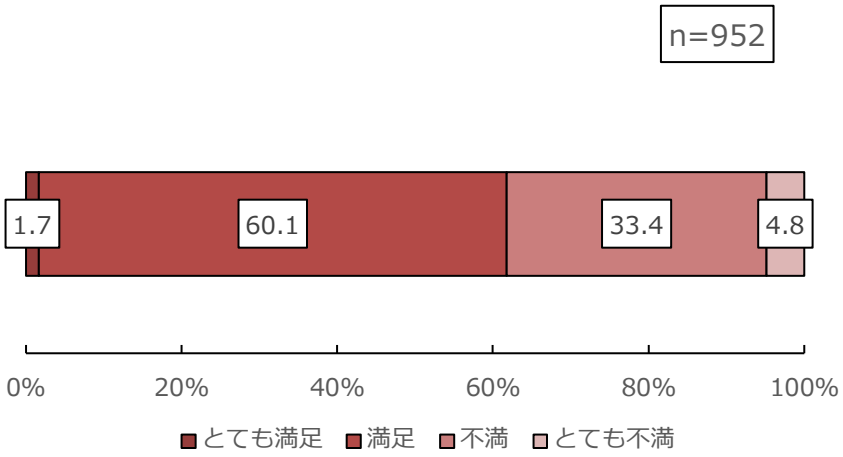
しかし姉妹都市であるフッドリバー市との交流が充実しているかについては、「わからない」が60%と最も高く、「充実している」も31.9%と認知度に比べて低いです。

これらのことからキャッチフレーズ自体の認知度は高いが、国際交流の内容については認知度が低いことが考えられます。

ただし姉妹都市のさつま町と比較した際には、「充実している」の割合がフッドリバー市79.9%、さつま町が77.2%とフッドリバー市の方が高いとわかります。よって国際交流の意識が浸透していると考えられます。

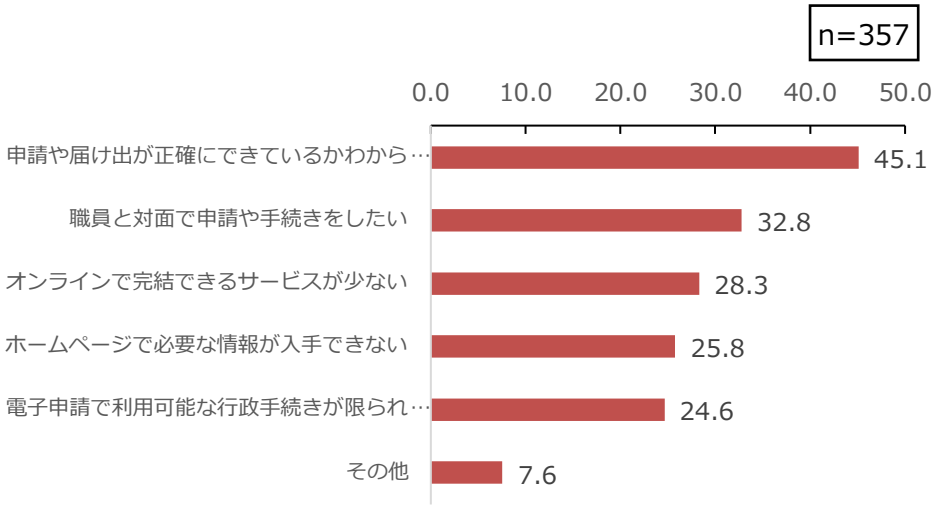
行政サービスのデジタル化

「行政サービスのデジタル化の現状に対する満足度」



行政サービスのデジタル化の現状について、全体としては約6割が満足と回答しています。就業状況別で見ると、正社員で「不満」「とても不満」と答える割合が約5割となっています。また、県外出身者でも「不満」「とても不満」と答える割合が約5割となっています。

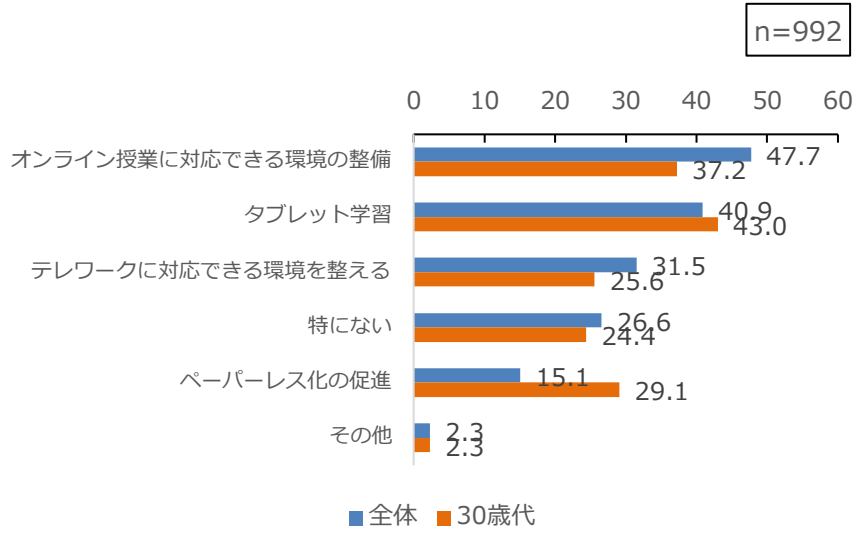
「デジタル化に対して不満を抱く理由」



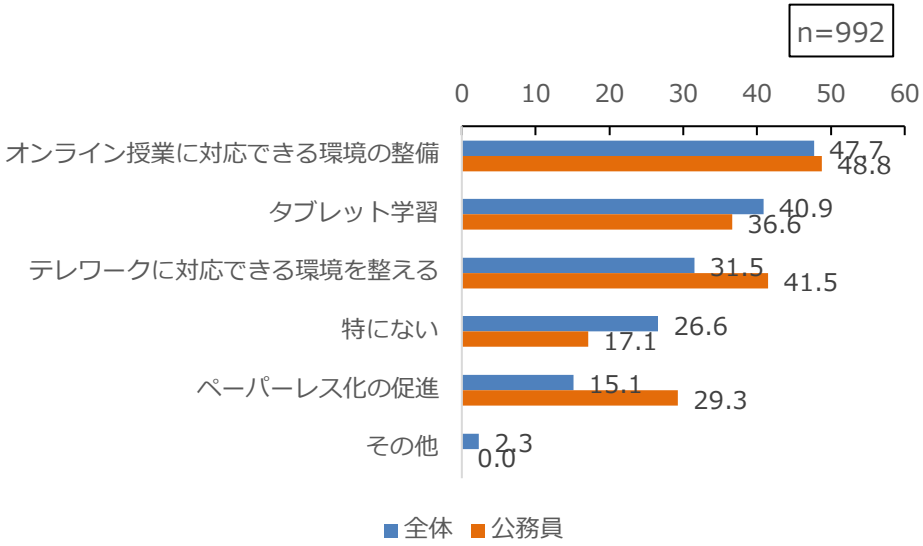
不満を感じている理由として、「申請や届け出が正確にできているかわからない」が4割強を占めています。
「職員と対面で申請や手続きがしたい」は40代から年代が上がるごとに回答割合が高くなる傾向が見られます。また、20代から40代までは「オンラインで完結できるサービスが少ない」の回答割合が高く、20代では約7割となっています。

学校・職場でのICT（インターネット）導入について

「学校・職場でのICT導入についてどのような取り組みが重要か」

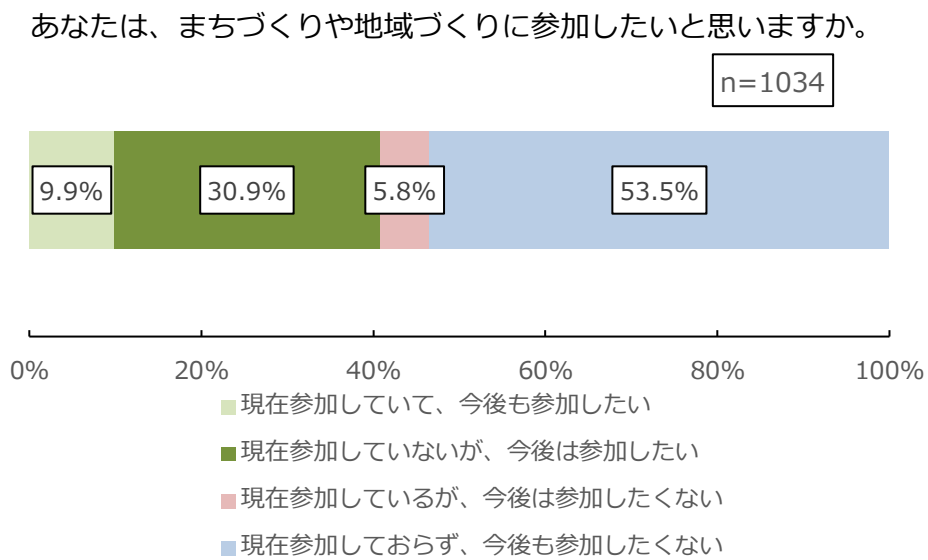


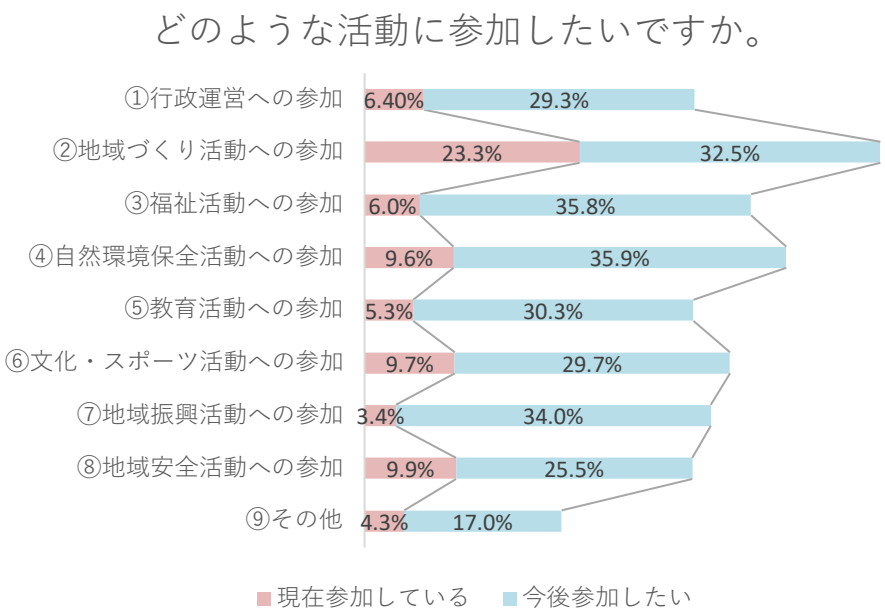
年齢別に見ると、30歳代でのみ、「タブレット学習」が「オンライン授業に対応できる環境の整備」を上回っています。



職業別で見ると、公務員では「テレワークに対応できる環境を整える」、「ペーパーレス化の促進」が他の職業よりも多く、それぞれ41.5%、29.3%となっています。

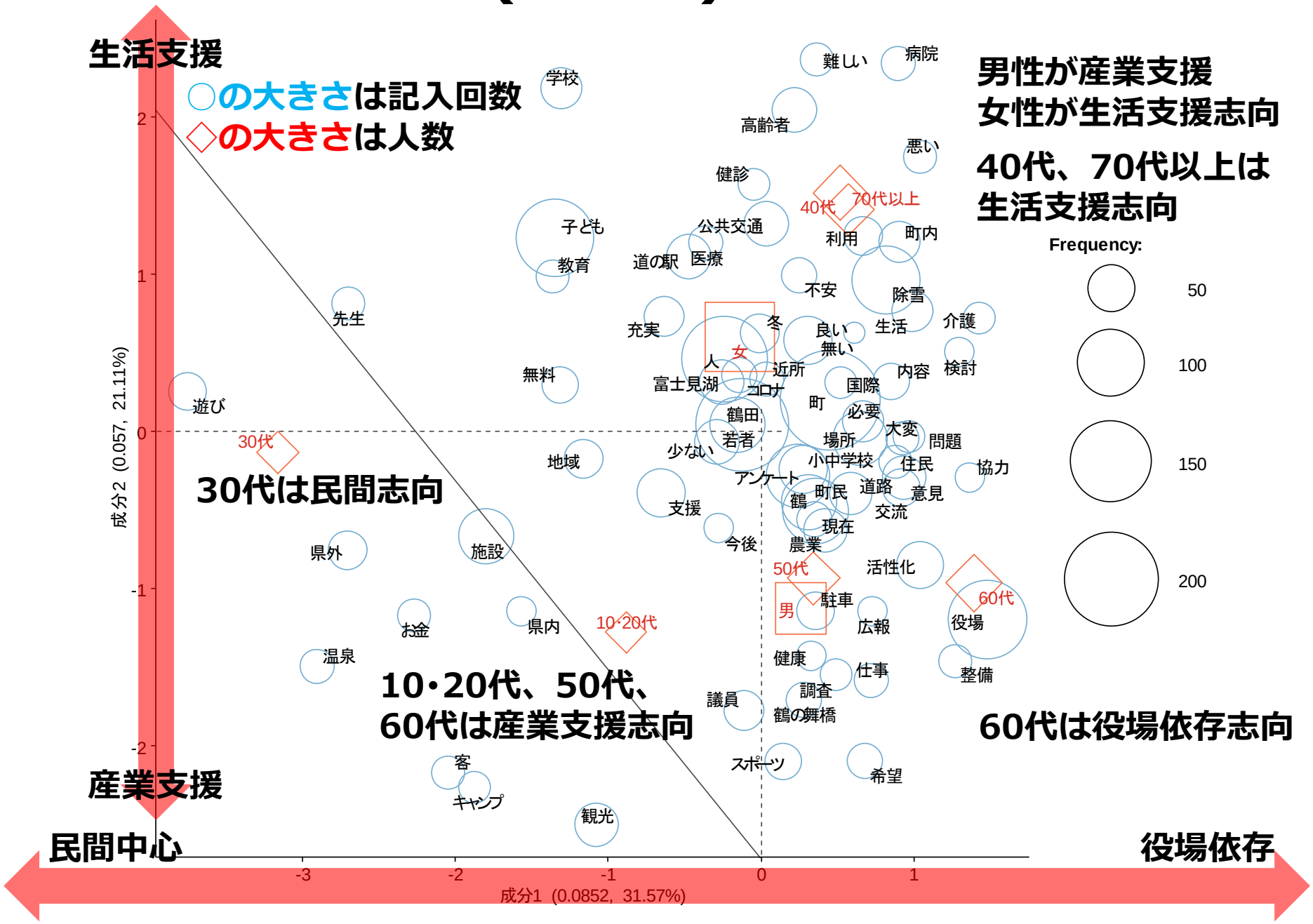
地域づくりに参加したい人はどんな人か





今後、まちづくりや地域づくりに参加したいと思うかどうかについて、約4 割の人が参加したいと答え、約6 割の人が参加したくないと答えました。今後も参加したいと答えた人の属性としては、中学生以下の子どもと同居している人が14.3%と高くなっています。また、鶴田町内で就業している人は、「現在参加していて、今後も参加したい」と回答した割合が15.1%と高くなっています。

現在参加していると答えた人に、どのような活動に参加したいか聞いた設問では、「②地域づくり活動への参加」と答えた人が最も多かったです。

鶴田町内で就業している人は、鶴田町内で就業していない人に比べて、現在参加している割合が高くなっています。また、鶴田町内で就業していない人は、今後参加したいと回答した割合が高くなっています。

自由回答回答者(216名)の性別・年齢別傾向